青少年教育施設の指定管理について

次のとおり指定管理者制度を継続する。

１　指定管理を行う施設の名称及び所在地

（１）川崎市青少年の家

川崎市宮前区宮崎１０５番地１

（２）川崎市八ケ岳少年自然の家

長野県諏訪郡富士見町境字広原１２０６７番地４８２

（３）川崎市子ども夢パーク

川崎市高津区下作延５丁目３０番１号

２　次期指定管理期間

令和３年４月１日から令和８年３月３１日まで　５年間

３　指定管理者の応募方法

公募

青少年教育施設におけるこども未来局との関係

教育委員会事務の委任等に関する規則（昭和 47 年教委規則第 20 号）第 2 条及び第 3 条の規定に基づき、事務委任又は補助執行している。

教育委員会（生涯学習推進課）		こども未来局（青少年支援室）
・施設及び設備の維持管理及び使用許可に関すること ・施設及び設備の目的外使用許可に関すること	→	【事務委任】（※１） ・施設及び設備の維持管理及び使用許可に関すること(指定管理者が行う事務を除く。)。 ・施設及び設備の目的外使用許可に関すること。
・教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 ・設置及び廃止並びに位置及び名称の変更に関すること。 ・教育財産の用途又は目的の変更若しくは廃止に関すること。 ・告示及び公告に関すること。 ・指定管理者に関すること。 ・附属機関に関すること。	⇔ 連携して行う業務	【補助執行】（※２） ・教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 ・設置及び廃止並びに位置及び名称の変更に関すること。 ・教育財産の用途又は目的の変更若しくは廃止に関すること。 ・告示及び公告に関すること。 ・指定管理者に関すること。 ・附属機関に関すること。

※１　事務委任：事務を処理する権限の委任がされると、委任庁はその処理権限を失い、受任庁が自己の名においてその事務を処理するもの。

※２　補助執行：内部的に執行機関の権限を補助機関に補助執行させることをいい、対外的には本来権限を有する執行機関の名においてその事務を処理するもの。

〈指定管理者に関すること〉※具体的内容は次のとおり

教育委員会（生涯学習推進課）		こども未来局（青少年支援室）
指定管理者制度導入の可否の検討		
指定管理者制度による管理とする場合には、教育委員会での審議		教育委員会への対応
※こども未来局と連携した業務執行	⇔	指定管理者の募集
		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催 （指定管理者予定者の選定）
		指定管理議案の提出
		指定管理者の選定
		協定書締結、業務引継
		モニタリング
		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催（年度評価）
		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催（総括評価） モニタリングの実績を踏まえた、指定管理者制度活用の妥当性の検証
こども未来局による総括評価結果を踏まえるなど、必要に応じて教育行政の視点からの指定管理者制度活用の妥当性を検証し、制度継続の可否を検討		

２川こ青第３４８号
令和２年７月１７日

教　育　長　　様

こども未来局長

青少年教育施設の指定管理者制度について（依頼）

教育委員会事務の委任等に関する規則（昭和４７年教委規則第２０号）に基づき、補助執行している青少年教育施設のうち、川崎市青少年の家、川崎市八ケ岳少年自然の家及び川崎市子ども夢パークについては、令和３年３月３１日をもって指定期間が満了するため、令和２年７月１０日開催の川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会におきまして、指定管理者制度を継続することが適当であるとの審議結果をいただきました。

つきましては、この結果を御報告するとともに、指定管理者制度の継続の可否について、御審議いただきますようお願いいたします。

こども未来局青少年支援室
施設指導・企画担当　山﨑
TEL：044-200-3084（内線 43332）
E-mail：45sien@city.kawasaki.jp

第６号様式（第１２条関係）

公の施設の指定管理者の評価に関する調査審議結果通知書

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">件　　名
青少年教育施設４施設の令和元年度評価及び３施設（青少年の家、八ケ岳少年自然の家、子ども夢パーク）の総括評価について</td><td>依 頼 課 名</td><td>こども未来局
青少年支援室</td></tr>
<tr><td>受 付 番 号</td><td>２収川こ企第５３７号</td></tr>
<tr><td>施 設 名 称</td><td colspan="3" rowspan="2">①青少年の家 川崎市宮前区宮崎 105－1
②八ヶ岳少年自然の家 長野県諏訪郡富士見町境字広原 12067－482
③子ども夢パーク 川崎市高津区下作延 5－30－1
④黒川青少年野外活動センター 川崎市麻生区黒川 313－9</td></tr>
<tr><td>施 設 所 在 地</td></tr>
<tr><td>指 定 期 間</td><td colspan="3">①平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
②平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
③平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで
④平成 31 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで</td></tr>
<tr><td>評 価 対 象 年 度</td><td colspan="3">令和元年度</td></tr>
<tr><td colspan="4">次のとおり、評価を行いましたので、通知します。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">公の施設管理者</td><td>法人・団体名</td><td>①川崎フィールズパートナーズ
②一般社団法人富士見町開発公社
③川崎市子ども夢パーク共同運営事業体
④特定非営利活動法人国際自然大学校</td></tr>
<tr><td>代表者名</td><td>①株式会社東急コミュニティー
代表取締役社長 雑賀 克英
②理事長 名取 重治
③公益財団法人川崎市生涯学習財団
理事長 渡邊　直美
④理事長 佐藤 初雄</td></tr>
<tr><td>所在地</td><td>①東京都世田谷区用賀 4－10－1
②長野県富士見町富士見 6666 番地 703
③川崎市中原区今井南町 514－1
④東京都狛江市岩戸北 4－17－11</td></tr>
<tr><td colspan="4">評価結果
年度評価については概ね所管課の評価どおりとし、総括評価については別紙のとおりとする。</td></tr>
</table>

川崎市青少年の家　施設概要

名　称	川崎市青少年の家
所在地	川崎市宮前区宮崎１０５－１
開設年月日	昭和６３年７月２１日
構　造	鉄筋コンクリート造
規　模	地下１階、地上３階、塔屋１階
敷地面積	９，８１１．０９㎡
建築面積	２，１９９．７９㎡
延床面積	４，５６９．４１㎡
地下施設	音楽室（６４）、プール更衣室・シャワー室（男・女）、 トイレ（男・女）、機械室、電気室 ※（　）内の数字は各室の定員
１階施設	事務室、指導員室、応接・会議室、所長室、保健室、宿直室、団体活動室、 食堂（１２０）、厨房、オリエンテーション・ホール（１００）、 プレイ・ホール（１００）、談話コーナー、宿泊室（洋室４人）×１２室、 リーダー室（洋室２人）×１室、リーダー室（和室６人）×１室、 トイレ（男・女）×２、機械室 大浴室（２５）、中浴室（１５）、小浴室（１） ※（　）内の数字は各室の定員
２階施設	研修室１（３６）、研修室２（３６）、特別研修室（２４）、談話室（２０）、 創作活動室（５６）、展示コーナー、宿泊室（和室１０人）×６室、 リーダー室（洋室２人）×１室、リーダー室（和室６人）×１室、 映写室（プレイ・ホール用）、トイレ（男・女） ※（　）内の数字は各室の定員
３階施設	宿泊室（洋室４人）×１２室、リーダー室（洋室２人）×１室、 リーダー室（和室６人）×１室、トイレ（男・女） ※（　）内の数字は各室の定員
塔屋施設	エレベーター機械室 ※（　）内の数字は各室の定員
屋外施設	キャンプ・ファイヤー場 水浴場（児童用プール　１５ｍ×１５ｍ、水深０．８ｍ～１．０ｍ） 屋外炊飯場　３６．００㎡ ※（　）内の数字は各室の定員

様式例 13　指定管理者制度活用事業　総括評価シート

指定管理者制度活用事業　総括評価シート

評価年月日：令和２年　７月１０日

評　価　者：川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会

１．業務概要

施設名	川崎市青少年の家
指定期間	平成２８年４月１日　～　令和３年３月３１日
業務の概要	・施設設備の管理運営及び維持保全に関すること ・施設設備の利用許可及び提供に関すること ・主催事業の企画実施に関すること ・青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること ・施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること ・その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること
指定管理者	名称：川崎フィールズパートナーズ ・代表者名　株式会社　東急コミュニティー 代表取締役社長　雑賀　克英（さいが　かつひで） 東京都世田谷区用賀４丁目 10 番１号 ・構成員名　特定非営利活動法人　国際自然大学校 理事長　佐藤　初雄 東京都狛江市岩戸北４丁目 17 番 11 号
所管課	こども未来局青少年支援室（内線：４３３３２）

２．「評価の視点」に基づく事業期間全体の評価

	評価項目	事業実施状況等
1	市民や利用者に十分な量及び質のサービスを提供できたか。	【事業実績】 （利用者数） 指定管理導入前：37,747 人（平成１７年度） 第１期（H18～22 年度）：37,019 人（年度平均） 第２期（H23～27 年度）：39,975 人（年度平均） 第３期　：36,783 人（年度平均） 平成 28 年度　：33,842 人 平成 29 年度　：41,656 人 平成 30 年度　：39,277 人 令和元年度　：32,359 人　＊市の大規模工事、新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ感染症の影響大 【評価】 事業期間を通じて、管理面と運営面におけるそれぞれの構成員が強みを生かした職員を効率的に配置することで、経験とノウハウを生かした管理運営を行うとともに、職員研修を積極的に行うことで職員の資質、専門性向上を図っている。 当事業期間においては、「森のようちえん」「親子防災キャンプ」など体験型のプログラムや「英語教室」など参加型のプログラムを企画、実施するとともに、「BBQ 中級インストラターMC 講習会」など自然体験活動の魅力を伝える指導者の養成を行った。また、利用者アンケートによりニーズを随時把握し、運営に反映させることで利用者数を伸ばしてきた。 令和元年度は、市の大規模工事（空調改修）や新型コロナウイルス感染症の影響を受けて利用者数が減少した（これら影響を除くと利用者数は増加していた可能性が高いと考えられる。）が、利用者へのサービスは低下していない。
2	当初の事業目的を達成することができたか。	【事業目的】 団体宿泊研修等を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図ることを目的とする。 【評価】 各年度とも２０を超える主催事業を企画して実施するとともに、施設の提供、学校や地域、青少年関係団体との連携などを通じて、心身ともに健全な青少年の育成に寄与しており、当初の事業目的を達成している。
3	特に安全・安心の面で問題はなかったか。	事故防止・対応を目的とした「安全管理マニュアル」、災害対策を目的とした「緊急対応マニュアル」等が整備されており、スタッフ向けに安全管理研

		修を実施して事故防止、防犯・防災のための体制づくりや日常の点検や巡視を実施している。また、ヒヤリ・ハット事例やケガ等の事例があった場合は、職員会議やメールにより職員間で情報共有を行って再発防止に努めており、事業期間を通じて大きな事故等は報告されていない。
4	更なるサービス向上のために、どういった課題や改善策があるか。	利用者アンケートを積極的に実施して、利用者の意見や苦情の把握に努め、アンケート結果は、職員間で共有して課題の把握と解決に努めている。 申込みが多い夏期の施設利用については、事前調整が必要となるが、日程調整と利用調整が必要になり、利用者及び職員にとって大きな負担となっていたが、同日に各調整を実施することにより双方の負担軽減を図るなど改善も図られている。

３．これまでの事業に対する検証

	検証項目	検証結果
1	所管課による適切なマネジメントは行われたか。	【所管課によるマネジメント状況】 年度評価の実施（年１回） 定期的な報告内容の確認（月１回・四半期） 青少年教育施設専門部会（年２回程度） 電話連絡、実地調査の実施（随時） 【評価】 日常の電話等による連絡調整のほか、事業評価を通じた業務実施状況の確認など、適切にマネジメントを行っている。
2	制度活用による効果はあったか。	【経費実績】 〇指定管理料 指定管理制度導入前（H17 年）：年 94,689 千円 第１期（H18～22 年度）　：年 75,436 千円（平均） 第２期（H23～27 年度）　：年 73,158 千円（平均） 第３期　：年 76,968 千円（平均） 平成 28～30 年度　：年 76,758 千円 令和元年度　：年 77,600 千円　※10 月～消費税 10% 〇第３期の収支差額 平成２８年度　：△　855 千円 平成２９年度　：　2,051 千円 平成３０年度　：　1,425 千円 令和元年度　：　3,415 千円 【評価】 利用者数は制度導入後、第１期、第２期と増加し、第３期に入って平成２８年度は減少したものの、地元町内会と連携したチラシの配架等を積極的に行ったことなどにより、令和元年度の第１四半期頃までは増加傾向にあった。 経費については、指定管理者制度導入前（平成１７年度）は年 94,689 千円、第２期は 73,158 千円、第３期は 76,968 千円（消費増税の影響あり）であり、制度導入前と比較しても年間 18 百万円程度の経費節減効果が認められるほか、収支状況も平成 29 年度以降はプラスに転じ、その後も改善が見られる。
3	当該事業について、業務範囲・実施方法、経費等で見直すべき点はないか	施設の老朽化に伴う修繕が増加しており、施設・設備の長寿命化を含めた施設保全が課題になっている。令和３年度には大規模な外壁改修工事が予定されており、利用休止等に伴う収入の減少も想定する必要があるが、影響額の見込みが難しい。 （参考）指定管理者負担の修繕費の状況 平成２８年度　：　2,408 千円 平成２９年度　：　2,981 千円 平成３０年度　：　4,794千円 令和元年度　：　5,819 千円
4	指定管理者制度以外の制度を活用する余地はないか	令和元年度は市の大規模工事、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減少し、令和２年度に入って休所や利用制限を行ったため利用者数はさらに減少している状態にあることから、今後も指定管理者のノウハウを活用し、早期にリピーター等の利用再開を促していく必要がある。 また、事業の目的から利用料金を低廉に設定しており、コスト面から見ても経費節減効果の認められる指定管理者制度以外の制度を活用する余地はないと考えられる。

４．今後の事業運営方針について

近年、利用者数は４万人前後で推移しており、利用状況は概ね安定している。収支については平成 29 年度以降プラスに転じ、大きく改善してきているが、修繕費が他の経費支出を圧迫している状況がみられることから、修繕費等の負担のあり方については、次の事業期間の管理運営に向けた課題であり検討が必要となる。

また、新型コロナウイルス感染症対応を踏まえ、今後においては「新しい生活様式」を取り入れて運営していく必要があり、民間事業者が持つノウハウを最大限に活用して、効果的・効率的な運営を図っていく必要がある。

しかしながら、現状においては、指定管理者制度の導入によって、直営時よりも低いコストでサービスの提供を行うことができており、また、震災等によって地域活動の重要性が明らかとなっている昨今においては、団体宿泊研修等の指導等に関わる当施設の運営の意義は大きいと考えられることから、今後も５年間の指定管理者制度を継続する方針とする。

青少年の家　利用実績推移・収支実績の推移

（1）利用実績の推移

		利用実績推移			
		利用者数（人）	前年度比	利用団体数（組）	前年度比
第1期	18年度	36,932	▲ 815	690	▲ 49
	19年度	37,323	391	661	▲ 29
	20年度	38,276	953	715	54
	21年度	37,256	▲ 1,020	757	42
	22年度	35,307	▲ 1,949	757	0
第2期	23年度	41,180	5,873	952	195
	24年度	40,783	▲ 397	948	▲ 4
	25年度	40,819	36	861	▲ 87
	26年度	40,592	▲ 227	870	9
	27年度	36,502	▲ 4,090	826	▲ 44
第3期	28年度	33,842	▲ 2,660	671	▲ 155
	29年度	41,656	7,814	842	171
	30年度	39,277	▲ 2,379	918	76
	01年度	32,359	▲ 6,918	837	▲ 81
	02年度	―	―	―	―

（2）収支実績の推移

		収支実績推移		
		収入	支出	差し引き
第1期	18年度	90,336,634	84,236,967	6,099,667
	19年度	91,123,601	88,299,631	2,823,970
	20年度	91,511,940	89,346,569	2,165,371
	21年度	90,333,070	86,045,173	4,287,897
	22年度	90,057,570	96,852,260	▲ 6,794,690
第2期	23年度	85,225,008	83,014,819	2,210,189
	24年度	86,573,963	86,331,131	242,832
	25年度	85,662,066	86,390,382	▲ 728,316
	26年度	94,702,299	93,729,942	972,357
	27年度	90,305,522	90,124,304	181,218
第3期	28年度	92,370,085	93,224,614	▲ 854,529
	29年度	93,790,508	91,739,466	2,051,042
	30年度	116,315,841	114,890,634	1,425,207
	01年度	114,050,342	110,635,000	3,415,342
	02年度	–	–	–

（3）評価点数の推移

		評価点の推移	
		評価点	評価ランク
第1期	18年度	―	―
	19年度	―	―
	20年度	61	C
	21年度	65	C
	22年度	66	C
第2期	23年度	67	C
	24年度	63	C
	25年度	62	C
	26年度	65	C
	27年度	62	C
第3期	28年度	67	C
	29年度	68	C
	30年度	71	B
	元年度	71	B

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名　川崎フィールズパートナーズ ・代表者名　株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長　雑賀　克英 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名　特定非営利活動法人国際自然大学校 理事長　佐藤　初雄	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　32,359人 （H30年度:39,277人） うち宿　泊:21,633人（H30年度:26,399人） うち日帰り:10,726人（H30年度:12,878人）	②年間延べ利用団体数 837団体 （H30年度:831団体） うち宿　泊:306団体（H30年度:369団体） うち日帰り:531団体（H30年度:549団体）
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　77,600,000 利用料金収入　11,335,325 その他収入（食堂収入等）　17,582,923 補償金　4,595,764 合　計　114,050,342 2　支出 人件費　43,302,270 管理費　67,332,730 （委託費）　(29,350,794) （光熱水費）　(14,795,001) （修繕費）　(5,819,334) （賃借料）　(4,420,541) （その他経費）　(12,947,060) 合　計　110,635,000 差引　3,415,342	
サービス向上の取組	利用者ニーズを把握するため利用者アンケートを実施し、メールや職員会議を通じて職員間での情報共有を図り、利用者満足度向上のためのサービス改善を図っている。また、主催事業や地域イベントにおいて地域や学校、行政等と積極的連携を図っており、苦情やトラブルに柔軟かつ早急に対応している。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・概ね事業計画どおりに事業を実施し、施設の目的である団体宿泊研修等を通じて、心身ともに健全な青少年の育成に寄与している。 ・当年度は新規事業として放課後ボードゲーム体験会事業を実施し、引き続き地域や学校、行政等との積極的な連携を図ったが、市が実施した大規模工事や新型コロナウイルスによるイベント中止の影響を受けて利用者数は32,359人、利用団体数は837団体となり、昨年度に比べそれぞれ6,918人、81団体の減少となった。しかし、これらの影響を除くと利用者数は前年度に比べ増加していた可能性が高いと考えられる。 【参考】 第3期指定管理期間（平成28年度　33,842人、平成29年度　41,656人、平成30年度　39,277人、令和元年度32,359人） 第2期指定管理期間（平成23年度～平成27年度）平均延べ利用者数:39,975人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	4	4
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・適切な金銭管理・会計手続について、財務関係諸規定等に従って適切に会計処理がなされており、施設における金銭取扱者を定めて適切に処理、検査し、本部に送付して確認を行っている。また、年1回、本部が施設に対し監査を実施しており、相互チェック機能が働いている。 ・概ね計画に基づいて適切かつ効率的・効果的に執行しており、大規模工事や新型コロナウイルスの影響による収入の減や予算未計上の修繕費の増にも柔軟に対応（備消品費の節減など）している。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設・事業の広報について、両面カラーチラシを近隣小中学校や保育園、幼稚園に配布したほか、宮崎台駅を含む地域の町内会の協力を得て対象エリアを見直して配布を行うなど、事業の周知及び利用促進のための広報を積極的に行い、年間を通じて実施する事業については定員に近い参加者で実施することができている。 ・利用者への対応について、職員会議等を通じて利用者からのアンケート内容の共有やトラブル対応など職員間の情報共有を徹底し、概ね良好な接遇が行われており、苦情や要望に対しても柔軟かつ早急に対応した。 ・青少年の家フェスタなどの事業は新型コロナウイルスの影響を受けて中止となったが、「ほのぼのスクール」の継続実施やインターンシップの受入れによって学校との連携を図るとともに、青少年関係施設との間における会議の招致や地域住民の活動の場の提供(敷地内開放)を通じて青少年関係施設や地域住民との連携を図った。 ・利用者ニーズを把握するためアンケート等を実施し、メールや職員会議等を通じて職員間で情報共用を図るともに、その結果をもとに課題の把握・解決に努めた。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・能力や実績をもとに計画どおり職員を配置し、閑散期と繁忙期に区分してローテーション勤務することで一定のサービスレベルを維持するとともに、繁忙期には臨時職員を雇用して宿直2名体制を維持した。また、主催事業の際には本部から応援要員を補充するなど弾力的かつコスト増加を抑制する人員配置を行った。 ・計画どおり職員研修を実施しており、今年度はCONE安全管理者(リスクマネージャー)更新講習を受講し、安全管理と事故防止に係る意識の向上を図った。 ・個人情報保護に係る諸規定を遵守し、個人情報保護に関する研修を受講して研修内容を全職員へ周知するなど個人情報の保護に努めている。また、毎月1回本部のチェックシートにより職員教育を実施し、個人情報の情報漏洩防止の徹底、漏洩時の対策時の確認を行った。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	4	4
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・維持管理保全の管理業務計画を作成し、計画に則った保守点検管理に実施し、その結果に基づく適切な修繕等を行い、職員による保守管理とし自己修繕や植栽の剪定等を実施した。 ・安全管理マニュアルに基づいてスタッフ向けの安全管理研修と必要な指導を行い、「事故・けが人」発生時の対応マニュアルの見直しを図ったほか、応急救護手当プログラムである講習会を受講し、利用者の安全確保に努めた。 ・勤務シフトごとのチェックシートを作成し、巡回時の点検事項に漏れが生じない体制を構築し、安全や維持管理の観点から重要な点を見回り、結果を日報に記録して職員間で共有した。また、計画外で宮前警察署の不審者対応に係る防犯研修を受講したほか、青少年相談研究集会などにも積極的に参加し、有事の際の対応や指導者としての資質、専門的な知識・技術の向上に努めた。 ・消防訓練を年2回実施するとともに、緊急対応マニュアル等の再確認を行うなど災害対策を行った。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

管理面と運営面におけるそれぞれの構成員が強みを生かした職員を効率的に配置することで、経験とノウハウを生かした管理運営が行われている。また、教育分野等に経験をを有する職員を確保し、ローテーション勤務や本部職員の応援体制、繁忙期における臨時職員雇用など職員配置を弾力的に実施し、効率的・効果的な管理運営を行っていること、また、学校や青少年関係団体、地域住民との連携や関係性も良好である点は評価できる。当年度は計画時に見込みのない市の大規模工事や新型コロナウイルス対応の影響を受け、大幅な利用者数の減少や主催事業等の中止など例年にない対応が必要となったこともあり、前年度に比べると全体としての取組にやや積極性を欠くが、不測の事態にも柔軟かつ適切に対応したことは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

利用者の安全確保と満足度向上が大切ではあるが、新型コロナウイルス感染症への対応は終息しておらず、感染状況を見据えながら基本的な対策の徹底と柔軟な対応を行うこと。

感染症終息後は、企業等に対する団体利用の働きかけや利用者ニーズの積極的把握に努め、利用促進に向けた積極的な取り組みを再開させること。また、次期指定管理期間に向けて引継ぎ等の準備を適切に行うこと。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名　川崎フィールズパートナーズ ・代表者名　株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長　雑賀　克英 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名　特定非営利活動法人国際自然大学校 理事長　佐藤　初雄	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　39,277人 （H29年度：41,656人） 内、宿　泊：26,399人（H29年度：25,090人） 内、日帰り：12,878人（H29年度：16,566人）	②年間延べ利用団体数 918団体 （H29年度：842団体） 内、宿　泊:369団体（H29年度：375団体） 内、日帰り:549団体（H29年度：467団体）
収支実績	1　収入　　単位：円 指定管理料　76,758,000 利用料金収入　15,373,525 その他収入　24,184,316 合　計　116,315,841 2　支出 人件費・賃金　43,484,908 光熱水費　15,205,132 委託費　32,512,519 消耗品費　1,171,284 修繕費　4,793,920 その他経費　17,722,871 合　計　114,890,634 差引　1,425,207	
サービス向上の取組	利用者アンケートを実施し、利用者の意見を反映させながら、サービスの向上に努めている。また、苦情対応マニュアルを基に研修を行い、利用者や近隣住民に適切に対応している。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・概ね事業計画どおりに事業を実施し、施設の目的である団体宿泊研修等を通じて、心身ともに健全な青少年の育成に寄与している。 ・当初計画にない特色のある事業として、今年度新たに「BBQ中級インストラクターMC講習会」を実施し、BBQを通して、自然体験活動の魅力を伝える指導者の育成を図った。また、青少年教育施設職員研修を実施し、国や県の教育施設の職員や民間の職員が14名参加し、課題やそれに対する解決策について議論を行う等、参加者の資質向上に寄与している等、指導者養成事業の充実を図った。 ・その他、サーチウォーク体験会や音楽鑑賞会、サーキットエアロ等、様々な事業を実施した結果、利用者数は39,277人であり、延べ宿泊者数は前年と比べ増加したものの、前指定管理時平均並みだった。 【参考】第2期指定管理時（平成23年度～平成27年度）平均延べ利用者数：39,975人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	4	4
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・適切な金銭管理・会計手続について、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、適切に会計処理がなされているとともに、施設が資金管理者を担当し、本社が帳簿管理者を担当し、相互チェックを行っているとともに、年1回、本社が施設に対し監査をしており、内部監査体制が整備されている。 ・効率的・効果的な支出について、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設・事業の広報について、近隣学校にチラシやポスターを8回配架する等定期的な広報に加え、新たな取組として、近隣幼稚園・保育園11園に対して830枚チラシを配架するとともに、町内会と連携し、地域住民に対してチラシの配架を行っており、施設、事業の周知及び利用促進のための広報を積極的に行った。 ・利用者への対応について、概ね良好な接遇が図られ、苦情や要望に適切に対応しているとともに、新たにディズニーから学ぶホスピタリティ研修を実施し、始業前に利用者対応について必ず話し合ってから接客を行う等、独自の研修を実施し、接遇の向上に積極的に取り組んだ。 ・学校及び行政機関との連携について、学校と連携とした「ほのぼのスクール」や青少年の家フェスタでは、JAセレサと連携して地域の特産物マルシェ等を実施している等、学校、行政機関、地域団体、地域住民等と連携した事業を取り組んだ。 ・利用者ニーズについて、アンケート等を実施しているとともに退所時の清掃チェックの際に聞き取りを行う等、利用者の意見や要望を把握している。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、計画どおり職員が配置されているとともに、BBQ上級インストラクターやリスクマネージャー等野外活動に精通した人材や保育士資格や教員免許を有する人材を積極的に配置しているとともに、「親子防災キャンプ」ではキャンプカウンセラーを運営スタッフとして招聘することによる事業充実を図る等、職員の専門知識を活かした事業展開を行った。 ・職員の研修体制について、計画どおり研修を実施するとともに、他施設のヒヤリハット事例や事業実施のノウハウを学ぶJONミーティングに参加した。得た知識を「ひみつ基地づくりキャンプ」や「週末チャレンジ」等の事故予防や事業充実に活かしており、研修の成果を事業運営に反映した。 ・個人情報等の取扱について、個人情報保護の規則やマニュアル等を整備されており、個人情報流出等のトラブルがなかった。さらに、個人情報保護に関する研修を受講し、全職員に研修内容を周知する等個人情報保護に努めている。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、施設・設備の保守点検や必要な補修工事を適切に実施しているとともに、修繕計画を作成して計画的に修繕を行った。 ・利用者の安全確保について、安全管理マニュアルを作成しており、1年間大きな事故がなかった。さらに、「食品衛生講習会」、「食物アレルギー講習会」や「赤十字救急法短期講習」の研修を独自に実施する等、利用者の安全確保に努めた。 ・防犯対策について、防犯マニュアル等を作成し、不審者侵入防止等の取組をしている。 ・災害への対応について、災害対応マニュアル等を作成し、避難訓練等を実施した。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

野外活動等に専門的な知識を有する職員を積極的に配置し、事業運営に活かしているとともに、「親子パネルシアター」等、野外活動や自然体験以外の事業の充実を図っており、地域住民の利用を促進していることは高く評価できる。また、積極的な施設修繕や職員の接遇向上に取り組むことで、利用者が快適に過ごせる施設運営を行っている。

さらに、団体利用促進のため、民間企業や大学へ働きかけ、研修場所や宿泊場所としての利用につなげており、稼働率を高める取組を行っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、安全管理マニュアル等について職員に周知徹底するなど、利用者の安全・安心を第一に考えた施設運営を行うこと。

また、企業等に対する団体利用の働きかけなど、利用者増に資する取組を継続して行うとともに、学校及び地域との意見交換や、意見箱の周知等により利用者ニーズを積極的に把握し、事業運営に十分反映させること。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名　川崎フィールズパートナーズ ・代表者名　株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長　雑賀　克英 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名　特定非営利活動法人国際自然大学校 理事長　佐藤　初雄	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　41,656　人 (H28年度:33,842人) 内、宿　泊:25,090人(H28年度:24,723人) 内、日帰り:16,566人(H28年度:9,119人)	②年間延べ利用団体数　842団体 (H28年度:671団体) 内、宿　泊:375団体(H28年度:344団体) 内、日帰り:467団体(H28年度:327団体)
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　76,758,000 利用料金収入　13,972,075 その他収入　4,068,930 合　計　94,799,005 2　支出 人件費・賃金　44,630,365 光熱水費　13,538,438 委託費　11,867,968 消耗品費　0 修繕費　2,981,484 その他経費　18,886,602 合　計　91,904,857 差引　2,894,148	
サービス向上の取組	利用者アンケートを実施し、利用者の意見を反映させながら、サービスの向上に努めている。また、苦情対応マニュアルを基に研修を行い、利用者や近隣住民に適切に対応している。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) ・施設の目的に沿って事業展開を行っており、豊かな自然を活かした体験活動や宿泊体験を通して、青少年の健全育成を行っている。 ・特色のある事業として、今年度新たに、「初めてお泊りキャンプ」を実施、野外炊事などを通して、新学習指導要領に基づく生きる力を育む力、問題解決能力等を習得するきっかけとなるプログラムを提供した。 ・その他、小学校低学年向けの「英語教室」や、幼児親子を対象とした参加型の「クリスマスコンサート」等、当初計画になかった独自事業も積極的に実施、こうした取組の結果、利用者数は前指定管理時と平均並みではあるものの、前年度よりも7,814人増加した。 【参考】第2期指定管理時(平成23年度～平成27年度)平均延べ利用者数:39,975人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) ・適正な金銭管理・会計手続について、施設と本社との間で、日報の提出により相互チェック機能を働かせているほか、本社による抜き打ち監査を行うなど、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理している。 ・効率的・効果的な支出について、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設・事業の広報について、高齢者や障害者を含めた全ての利用者が支障なくホームページを利用できるよう、ウェブアクセシビリティ向上のための改良を行った(総務省推奨基準JISX8341－3:2016のウェブアクセシビリティ達成等級AAに準拠)。 ・利用者への対応については、ホームページを活用して、施設利用時のルールを利用者に周知するなど、トラブル等の未然防止に努めるとともに、昨年度から継続して「マナー研修」を実施し、基本的な接客・電話対応等、接遇向上を図るなど、職員の資質向上に努めた。 ・学校及び行政機関との連携については、近隣の中学校、養護学校等における職業体験や、小中学校の総合学習や職場見学等を積極的に受け入れ、豊かな自然体験等を通した青少年の健全育成を行っている。 ・その他、今年度新たに、地域の子どもたちの居場所づくりとして、「のびっこ広場」と称して平日の放課後にプレイホールを無料開放し、学校以外での友達づくりや異年齢交流等の場を提供したことで、地域住民との連携が強化された。 ・利用者ニーズについては、アンケート等を実施し、利用者の意見、要望、満足度等の調査結果を施設管理や事業運営に反映した。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・人員配置については、教員免許のほか、BBQインストラクター、NEALコーディネーター(自然体験活動総括指導者)等、野外体験、教育現場に精通した人材を積極的に配置し、職員の専門知識を活かした事業展開を行った。 ・職員の研修体制については、職員のスキルアップや新規プログラム開発につながるような研修を積極的に受講させるなど、職員の資質向上に努めている。 ・個人情報等の取扱については、個人情報保護の規則・マニュアル等と管理・監督体制が整備されており、個人情報漏えい等のトラブルがなかったほか、個人情報保護に関するeラーニングによる研修及び本社との定期的なコンプライアンスに関する情報共有を実施するなど、情報漏えい防止の徹底及び漏えいした際の対策を確認した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、施設・設備の保守点検や必要な補修工事を適切に実施した。 ・利用者の安全確保について、事故対応マニュアル及び安全管理マニュアルを作成しているとともに、野外救急法研修会等を受講し、職員の資質向上に取り組んでおり、アレルギー事故があったときには適切な対応ができた。さらに、アレルギー対応マニュアル及び帳票等を刷新して提供方法を変更する等の業務改善を行った。 ・防犯対策について、チェックシートを作成し、点検事項に漏れがないような体制を整えており、毎月、警察との情報交換を実施している。 ・災害への対応について、災害対応マニュアル等を作成し、避難訓練等を実施した。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

教員免許を持つ職員を配置し、事業運営改善を図っている。新たな取組として体験型の事業を追加し、新学習指導要領に基づく生きる力を育む力や問題解決能力を習得するきっかけとなるプログラムの提供を行っている。中でも、「英語教室」、「サーチウォーク体験会」、「クリスマスコンサート」等、当初計画になかった独自の取組や特色ある事業を利用者ニーズを的確に把握することで実施したことは高く評価できる。

本社と連携することで適切な会計処理がされており、また、コンプライアンスに関する情報共有もされていること等は、適正な管理運営の観点から高く評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

利用者の安全・安心を第一に考えた事業執行とすること。発生した事故に対して整備したマニュアル等について職員に十分に周知する等、今後も再発防止に努めること。

学校及び地域との意見交換並びに設置した意見箱の周知等により利用者ニーズ積極的に把握し、今年度に引き続き、事業運営に十分反映させること。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	青少年の家	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名　川崎フィールズパートナーズ ・代表者名　株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長　雑賀　克英 東京都世田谷区用賀4丁目10番1号 ・構成員名　特定非営利活動法人国際自然大学校 理事長　佐藤　初雄	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　33,842人 (H27年度:36,502人) 内、宿　泊:24,723人(H27年度:25,930人) 内、日帰り:9,119人(H27年度:10,572人)	②年間延べ利用団体数　671団体 (H27年度:826団体) 内、宿　泊:344団体(H27年度:362団体) 内、日帰り:327団体(H27年度:464団体)
収支実績	1　収入　単位:円 指定管理料　76,758,000 利用料金収入　13,743,190 その他収入　2,800,474 合　計　93,301,664 2　支出 人件費・賃金　44,839,869 光熱水費　14,582,488 委託費　12,268,492 消耗品費　2,032,345 修繕費　2,408,184 その他経費　17,170,286 合　計　93,301,664 差引　0	
サービス向上の取組	利用者アンケートを実施し、利用者の意見を反映させながら、サービスの向上に努めている。また、苦情対応マニュアルを基に研修を行い、利用者や近隣住民に適切に対応している。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	2	2
	(評価の理由) 概ね計画どおりの事業が実施されていた。平成28年度には、前指定管理者から引き継いだ10事業のほか、新たに「親子アウトドアクッキング」や「森のようちえん」といった体験型の事業に取り組み、計21事業(合計106回)の主催事業を行った。平成28年度から実施した「親子アウトドアクッキング」では、参加者が野外活動の楽しさを知り、親子で一緒に活動することで、交流を深めることができた。また、「森のようちえん」では、近隣住民に1歳児から3歳児を持つ保護者が多いことなどから、利用者ニーズを把握し、対象を1歳児から3歳児とその保護者まで拡大した。事業を通じて、参加者が身近な自然の中で自由な発想で遊び、創造力を身につけることができたほか、新しい友達と仲良く一緒に遊ぶことができた。 宿泊者数は、前年度(平成27年度)実績が13,298人であったのに対して、今年(平成28年度)は15,396人となり、前年度よりも2,098人増加し、対前年比16%増となった一方、利用者数、参加団体数は共に減少しており、計画通り事業を実施しているものの、利用者数は、対前指定管理時平均比約18%減の33,842人にとどまっている。 【参考】第2期(平成23年度～平成27年度)年度平均利用者数:39,975人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) 仕様書に基づき、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 光熱水費5,546,000円、一般管理費494,000円の経費削減の取組を行っており、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			

(評価の理由)
施設・事業の広報を積極的に行い、新たに、年間イベントスケジュールを近隣学校6校に対して配布し、事業周知に取り組んだ。さらに、ホームページを全面的に刷新し、利用者が見やすくなるよう、写真を多く活用したホームページを作成して、施設イメージの向上を図ったほか、スマートフォンからのアクセスにも対応できる仕様に変更した。また、リーフレットについても、施設へのアクセスマップを改良したほか、ホームページのQRコードを追加したり、市外料金を追加することで料金体系を明示するなど、わかりやすい内容に改善した。
利用者への対応について、ホテル勤務経験者の職員が中心となって、全員に対し、電話対応や窓口対応の指導を行ったほか、職員会議においても、意見交換を行うことで職員間のレベルアップを図り、利用者に対し良好な接遇が行われた。さらに、独自に接遇マナー研修を実施するため、東急コミュニティー本社より専任講師を派遣し、基本的な接客・電話対応を再確認するなど、接遇の向上に積極的に取り組んでいた。
学校等との連携については、「ほのぼのスクール」を実施し、学校教諭を含めた運営委員会を募り、青少年の家、家庭、学校の三者間の連携を図ったほか、近隣小中学校の児童・生徒向けに、平日の放課後の時間帯にプレイホールを無料開放する「のびっこ広場」を実施し、「居場所作り」を行うことで、学校間を越えた友人関係が生まれるなど、学校や地域住民等と連携した取組を推進している。
【参考】「のびっこ広場」参加人数平成28年度合計延べ人数385人
利用者ニーズを把握するため、積極的にアンケートを実施し、アンケート結果から、食事メニューについて、季節感を取り入れ、同一団体に同じメニューが重ならないようなメニュー構成に変更するなど、利用者の意見、要望、満足度等の調査結果を施設管理や事業運営に反映させた。

組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4

(評価の理由)
人員配置については、教員免許を持つ職員を配置し、児童・生徒や団体指導者への助言・指導を適切に行ったほか、近隣学校との交流や情報共有等についても積極的に行うなど、資格を持った職員の知識や経験が事業に活かされている。
職員のスキルアップを図るため、事業計画上の研修に加えて様々な研修を実施した。特に、「森のようちえん指導者研修会」では、全国各地での事例を学ぶことで、その内容を「森のようちえん」のプログラムに反映し、年6回開催したほか、「バーベキューインストラクター初級講習会」で学んだノウハウを「親子アウトドアクッキング」で反映するなど、研修の成果を新たな事業や業務改善につなげた。
個人情報の取扱いについて、個人情報保護の規則・マニュアル等と管理・監督体制が整備されており、個人情報漏えいトラブルがなかったほか、個人情報保護研修を実施し、個人情報保護のスキーム、職員の意識の向上を図り、情報漏えい防止の徹底、漏えいした際の対策を確認した。

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			

(評価の理由)
施設・設備の保守管理について、点検計画に則った保守点検管理を行ったほか、保守点検結果に基づき、建物・設備の修繕を実施しており、施設・設備の保守点検や必要な補修工事を適切に実施した。
利用者の安全確保について、「青少年の家・安全管理マニュアル」の見直しを行ったほか、応急手当の訓練プログラムであるメディック・ファーストエイド研修を全職員が受講し、AEDの使用法、応急手当の心得等を学ぶことで、有事を想定し、実際の施設運営を行った。
防犯対策について、毎月、警察との地域の防犯状況等の情報交換を実施しており、不審者侵入防止等の取組をしている。
災害への対応について、「緊急対応マニュアル」の見直しを行ったほか、震災訓練や消防訓練を実施した。

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

数多くの多様な研修を積極的に行い、研修成果を主催事業や日々の業務に活かしているほか、教員免許を持つ職員を配置し、事業運営改善を図っている。また、アンケートを通じて、利用者ニーズを的確に把握し、リーフレットやホームページの刷新をするなどの業務改善を行い、利用者満足度向上に努めている。主催事業や平日の放課後のプレイホール無料開放を通して、地域との交流を深めていることも評価できる。
地域と連携しながら事業を展開し、青少年の健全な育成を図るという目的は果たしているが、利用者の減少に対して、更に積極的に取り組むことが望まれる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、近隣地域とのネットワークを活用した地域連携や、意見交換の場を設け、そこからの意見等を取り入れて事業に反映させ、更なる利用者サービス向上や施設を利用しやすい雰囲気づくりを行い、創意工夫により、より良い施設となるよう努めること。
また、利用者の安全・安心を第一に考えた事業・運営を実施し、公の施設の管理運営という業務の性質や利用者の視点を踏まえた管理運営に取り組むこと。
今後、施設・設備の保守管理においては、修繕計画を立て、計画的に修繕を行っていくこと。

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：川崎フィールズパートナーズ
施設名：川崎市青少年の家
対象年度：令和元年度

（単位：円）

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		76,758,000	77,600,000	842,000	1.1%		77,600,000	-0	0.0%	
2-1　利用料金収入	宿泊料・日帰り施設利用料	14,128,000	11,161,200	-2,966,800	-21.0%	コロナ関係によるキャンセル料の減額分を分離したため	11,335,325	174,125	1.6%	コロナ関係によるキャンセル料の減額分を分離したため
2-2　利用料金収入（感染症対策対応分）	宿泊料・日帰り施設利用料	0	2,966,800	2,966,800	#DIV/0!	〃	0	-2,966,800	-100.0%	コロナ関係によるキャンセル料の減
3-1　主催事業参加費収入		1,795,000	2,102,200	307,200	17.1%	コロナ関係によるキャンセル料の減額分を分離したため	2,936,330	834,130	39.7%	
3-2　主催事業参加費収入（感染症対策対応分）		0	154,800	154,800	#DIV/0!	〃	0	-154,800	-100.0%	コロナ関係によるイベント中止に伴う参加費収入減
4　食堂収入・協力金			18,966,336	18,966,336	—	コロナ関係によるキャンセル料の減額分を分離したため	17,582,923	-1,383,413	-7.3%	
4-2　食堂収入・協力金（感染症対策対応分）	食事料金	0	1,623,664	1,623,664	#DIV/0!	〃	0	-1,623,664	-100.0%	コロナ関係によるキャンセルに伴う食堂収入減
5　補償金		0		0	#DIV/0!		4,595,764	4,595,764	#DIV/0!	新型コロナウイルス感染症対策補償金
（小　計）		92,681,000	114,575,000	21,894,000	23.6%		114,050,342	-524,658	-0.5%	
Ⅱ　支出の部										
1　人件費										
職員俸給		33,221,000	41,473,000	8,252,000	24.8%		32,877,573	-8,595,427	-20.7%	
職員諸手当		8,063,000	0	-8,063,000	-100.0%	職員俸給に含めたため	8,676,697	8,676,697	#DIV/0!	
臨時職員賃金	プール指導員、宿直アルバイト	737,000	2,312,500	1,575,500	213.8%	宿直体制を２名体制に変更したため	1,748,000	-564,500	-24.4%	
臨時職員賃金（感染症対策対応分）	プール指導員、宿直アルバイト	0	149,500	149,500	#DIV/0!	コロナ関係費用を区分したため	0	-149,500	-100.0%	コロナ関係による宿直用賃金の減
2　管理費										
旅費交通費	通勤・交通費	522,000	400,000	-122,000	-23.4%		381,968	-18,032	-4.5%	
通信運搬費	郵便・電話代等	352,000	432,000	80,000	22.7%		421,177	-10,823	#DIV/0!	
衣服費	職員・スタッフ衣服	124,000	140,000	16,000	12.9%		0	-140,000	-100.0%	
広報費	HP運用費・改良費	358,000	732,000	374,000	104.5%		366,312	-365,688	-50.0%	
研修費	職員研修費	0	200,000	200,000	—		118,141	-81,859	-40.9%	
備品購入費		2,806,000	1,798,000	-1,008,000	-35.9%	修繕費増のための調整	134,816	-1,663,184	-92.5%	費目で備品購入費と消耗品費を分けたため
消耗品費		0	0	0	—		893,568	893,568	—	
賃借料	リネン・パソコンリース料他	4,449,000	4,337,000	-112,000	-2.5%		4,420,541	83,541	1.9%	
印刷製本費	コピー代・所報作成	324,000	390,000	66,000	20.4%		306,234	-83,766	-21.5%	
水道光熱費	電気・ガス・水道	20,745,000	15,000,000	-5,745,000	-27.7%	電気事業社の変更、プールの水の節約等	14,795,001	-204,999	-1.4%	
燃料費	市有車ガソリン代・車両消耗品備品	130,000	15,000	-115,000	-88.5%		6,805	-8,195	-54.6%	
修繕費	施設修繕	1,620,000	4,310,000	2,690,000	166.0%	修繕箇所の増加	5,819,334	1,509,334	35.0%	修繕箇所の増加
業務委託料	設備点検・清掃・ピアノ調律・食堂運営	10,269,000	31,698,000	21,429,000	208.7%	食堂収入分の計上	29,350,794	-2,347,206	-7.4%	
主催事業費用	主催事業経費・フェスタ費用	1,795,000	2,607,000	812,000	45.2%		2,060,050	-546,950	-21.0%	
損害保険料	施設賠償、KYWC保険、市有車保険	540,000	534,000	-6,000	-1.1%		591,511	57,511	10.8%	
租税公課	印紙税	54,000	48,000	-6,000	-11.1%		32,200	-15,800	-32.9%	
雑費	NHK受信料・食堂ノロウイルス検査代	0	966,000	966,000	—		364,224	-601,776	-62.3%	
一般管理費		7,435,000	7,435,000	0	0.0%		7,270,054	-164,946	-2.2%	
（小　計）		93,544,000	114,977,000	21,433,000	22.9%		110,635,000	-4,342,000	-3.8%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		-863,000	-402,000	461,000			3,415,342	3,817,342		
収支比率（収入／支出）		99.1%	99.7%				103.1%			

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：川崎フィールズパートナーズ
施設名：川崎市青少年の家
対象年度：2018年度

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・積立金の積立額（退職給付引当金を除く）については、収支状況等確認シート上、計上しないものとします。※退職給付引当金を計上する場合は、収支状況等確認シート上、人件費関係に区分してください。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		76,758,000	76,758,000	0	0.0%		76,758,000	0	0.0%	
2　利用料金収入	宿泊料・日帰り施設利用料	13,988,000	13,988,000	0	0.0%		15,373,525	1,385,525	9.9%	
3　主催事業参加費収入		1,762,000	2,257,500	495,500	28.1%		3,001,950	744,450	33.0%	
3　食堂収入・協力金		0	18,332,000	18,332,000	#DIV/0!	予算では想定食堂収入を記載	21,182,366	2,850,366	15.5%	食堂収入増
（小　計）		92,508,000	111,335,500	18,827,500	20.4%		116,315,841	4,980,341	4.5%	
Ⅱ　支出の部										
1　人件費										
職員俸給		33,221,000	41,283,900	8,062,900	24.3%	予算では諸手当を俸給に加算	32,651,247	-8,632,653	-20.9%	予算では諸手当を俸給に加算
職員諸手当		8,063,000	0	-8,063,000	-100.0%	〃	9,038,561	9,038,561	#DIV/0!	〃
臨時職員賃金	プール指導員、宿直アルバイト	737,000	1,937,100	1,200,100	162.8%	宿直・プール監視アルバイト増	1,795,100	-142,000	-7.3%	
2　管理費										
旅費交通費	通勤・交通費	522,000	733,320	211,320	40.5%		384,172	-349,148	-47.6%	
通信運搬費	郵便・電話代等	352,000	486,000	134,000	38.1%		401,950	-84,050	-17.3%	
衣服費	職員・スタッフ衣服	124,000	151,200	27,200	21.9%		124,610	-26,590	-17.6%	
広報費	HP運用費・改良費	358,000	777,350	419,350	117.1%	ネットワーク設備改良のため	223,573	-553,777	-71.2%	ネットワーク設備改良を見送った。
研修費	職員研修費	0	250,000	250,000	#DIV/0!	野外救急法研修等を開催を見込んだため	102,431	-147,569	-59.0%	
備品購入費		2,806,000	2,252,060	-553,940	-19.7%		355,578	-1,896,482	-84.2%	決算では備品購入費と消耗品費を区別
消耗品費		0	0	0	#DIV/0!		1,171,284	1,171,284	#DIV/0!	〃
賃借料	リネン・パソコンリース料他	4,430,000	5,029,400	599,400	13.5%		4,572,473	-456,927	-9.1%	
印刷製本費	コピー代・所報作成	324,000	524,880	200,880	62.0%	地域（町内会等）配布用チラシ作成を行ったため	328,374	-196,506	-37.4%	
水道光熱費	電気・ガス・水道	20,540,000	14,707,793	-5,832,207	-28.4%	想定水道光熱費減	15,066,465	358,672	2.4%	
燃料費	市有車ガソリン代・車両消耗品備品	130,000	143,640	13,640	10.5%		138,667	-4,973	-3.5%	
修繕費	施設修繕	1,620,000	3,000,000	1,380,000	85.2%	修繕箇所増	4,793,920	1,793,920	59.8%	修繕箇所増
業務委託料	設備点検・清掃・ピアノ調律・食堂運営	10,269,000	29,706,609	19,437,609	189.3%	予算では想定食堂収入を記載	32,512,519	2,805,910	9.4%	食堂収入増
主催事業費用	主催事業経費・フェスタ費用	1,762,000	2,461,048	699,048	39.7%		2,409,828	-51,220	-2.1%	
損害保険料	施設賠償、KYWC保険、市有車保険	540,000	630,000	90,000	16.7%		632,263	2,263	0.4%	
租税公課	印紙税	54,000	42,000	-12,000	-22.2%		35,024	-6,976	-16.6%	
雑費	NHK受信料・食堂ノロウイルス検査代	0	412,000	412,000	#DIV/0!	前年度決算を参考に必要項目を雑費として計上	582,064	170,064	41.3%	
一般管理費		7,520,000	7,520,000	0	0.0%		7,570,531	50,531	0.7%	
（小　計）		93,372,000	112,048,300	18,676,300	20.0%		114,890,634	2,842,334	2.5%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		-864,000	-712,800	151,200			1,425,207	2,138,007		
収支比率（収入／支出）		99.1%	99.4%				101.2%			

記入時期の目安：基本協定書締結

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：川崎フィールズパートナーズ
施設名：川崎市青少年の家
対象年度：平成29年度（2017年度）

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		76,758,000	76,758,000	0	0.0%		76,758,000	0	0.0%	
2　利用料金収入		13,848,000	13,500,000	-348,000	-2.5%		13,972,075	472,075	3.5%	
3　主催事業参加費収入		1,728,000	2,257,500	529,500	30.6%		2,539,150	281,650	12.5%	
4　食堂収入		0	549,960	549,960	#DIV/0!		521,283	-28,677	-5.2%	
5　物品販売収入		864,000	799,000	-65,000	-7.5%		1,008,497	209,497	26.2%	
（小　計）		93,198,000	93,864,460	666,460	0.7%		94,799,005	934,545	1.0%	
Ⅱ　支出の部										
1　人件費										
職員俸給		33,221,106	42,021,000	8,799,894	26.5%	職員手当・臨時職員賃金を含んだ予算	44,630,365	2,609,365	6.2%	
職員諸手当		8,063,032	0	-8,063,032	-100.0%	職員俸給に含む	0	0	#DIV/0!	
臨時職員賃金		737,000	0	-737,000	-100.0%		0	0	#DIV/0!	
2　管理費										
旅費交通費		522,000	648,000	126,000	24.1%		681,459	33,459	5.2%	
通信運搬費		352,000	451,440	99,440	28.3%		420,429	-31,011	-6.9%	
衣服費		124,000	151,200	27,200	21.9%		70,400	-80,800	-53.4%	
広報費		358,000	142,560	-215,440	-60.2%		465,912	323,352	226.8%	
備品購入費		2,806,000	2,540,160	-265,840	-9.5%		2,042,353	-497,807	-19.6%	
消耗品		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
賃借料		4,410,000	4,676,400	266,400	6.0%		4,450,948	-225,452	-4.8%	
印刷製本費		324,000	686,880	362,880	112.0%		363,098	-323,782	-47.1%	
水道光熱費		20,334,000	16,497,632	-3,836,368	-18.9%	前年度実績を反映させたことによる減	13,538,438	-2,959,194	-17.9%	
燃料費		130,000	140,200	10,200	7.8%		19,534	-120,666	-86.1%	
修繕費		1,620,000	2,709,960	1,089,960	67.3%	前年度実績を反映させたことによる増	2,981,484	271,524	10.0%	
業務委託料		10,269,000	11,924,569	1,655,569	16.1%		11,867,968	-56,601	-0.5%	
物品販売仕入		0	151,200	151,200	#DIV/0!		165,391	14,191	9.4%	
主催事業費用		1,728,000	2,461,048	733,048	42.4%		1,967,549	-493,499	-20.1%	
損害保険料		540,000	596,370	56,370	10.4%		670,523	74,153	12.4%	
租税公課		54,000	42,000	-12,000	-22.2%		34,000	-8,000	-19.0%	
一般管理費		7,605,000	7,610,201	5,201	0.1%		7,535,006	-75,195	-1.0%	
（小　計）		93,197,138	93,450,820	253,682	0.3%		91,904,857	-1,545,963	-1.7%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		862	413,640	412,778			2,894,148	2,480,508		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.4%				103.1%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：川崎フィールズパートナーズ
施設名：川崎市青少年の家
対象年度：平成28年度（2016年度）

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		76,758,000	76,758,000	0	0.0%		76,758,000	0	0.0%	
2　利用料金収入		13,708,000	13,708,000	0	0.0%		13,743,190	35,190	0.3%	
3　主催事業参加費収入		1,695,000	1,695,000	0	0.0%		1,356,360	-338,640	-20.0%	主催事業参加者減
4　食堂収入		0	0	0	#DIV/0!		512,535	512,535	#DIV/0!	食事料金授受方法変更による手数料が発生したため
5　物品販売収入		864,000	864,000	0	0.0%		931,579	67,579	7.8%	
（小　計）		93,025,000	93,025,000	0	0.0%		93,301,664	276,664	0.3%	
Ⅱ　支出の部										
1　人件費										
職員俸給		33,221,000	33,221,000	0	0.0%		34,116,558	895,558	2.7%	
職員諸手当		8,063,000	8,063,000	0	0.0%		9,263,835	1,200,835	14.9%	宿直2名配置による手当増
臨時職員賃金		737,000	737,000	0	0.0%		1,459,476	722,476	98.0%	宿直業務要員としてアルバイトを雇用
2　管理費										
旅費交通費		522,000	522,000	0	0.0%		661,415	139,415	26.7%	
通信運搬費		352,000	352,000	0	0.0%		409,094	57,094	16.2%	
衣服費		124,000	124,000	0	0.0%		180,426	56,426	45.5%	
広報費		358,000	358,000	0	0.0%		1,221,912	863,912	241.3%	HP作成費（1,000千円）がかかったため
備品購入費		2,806,000	2,806,000	0	0.0%		983,426	-1,822,574	-65.0%	消耗品費を含んだ予算額であるため
消耗品		0	0	0	#DIV/0!		2,032,345	2,032,345	#DIV/0!	消耗品予算を計上しなかったため
賃借料		4,391,000	4,391,000	0	0.0%		4,159,880	-231,120	-5.3%	
印刷製本費		324,000	324,000	0	0.0%		281,986	-42,014	-13.0%	
水道光熱費		20,129,000	20,129,000	0	0.0%		14,582,488	-5,546,512	-27.6%	電力会社変更・節減対策を行ったため
燃料費		130,000	130,000	0	0.0%		119,071	-10,929	-8.4%	
修繕費		1,620,000	1,620,000	0	0.0%		2,408,184	788,184	48.7%	食堂空調機故障による緊急修繕実施のため
業務委託料		10,269,000	10,269,000	0	0.0%		12,268,492	1,999,492	19.5%	予算外で除草作業実施のため
物品販売仕入		0	0	0	#DIV/0!		77,049	77,049	#DIV/0!	
主催事業費用		1,695,000	1,695,000	0	0.0%		1,254,464	-440,536	-26.0%	主催事業参加者減
損害保険料		540,000	540,000	0	0.0%		580,590	40,590	7.5%	
租税公課		54,000	54,000	0	0.0%		45,000	-9,000	-16.7%	
一般管理費		7,690,000	7,690,000	0	0.0%		7,195,972	-494,028	-6.4%	
									#DIV/0!	
（小　計）		93,025,000	93,025,000	0	0.0%		93,301,664	276,664	0.3%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		0	0	0			-0	-0		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.0%				100.0%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

川崎市八ケ岳少年自然の家　施設概要

名　　称		川崎市八ケ岳少年自然の家
所 在 地		長野県諏訪郡富士見町境字広原１２０６７－４８２
開設年月日		昭和５２年８月
構　　造		鉄筋コンクリート造、一部木造
規　　模		地上１階（全施設）、地上２階（とりの棟、星の棟） 地下１階（センターハウス、星の棟）　（※宿泊利用定員　５３１人）
敷地面積		３５６，６９１．４１㎡
建築面積		９，９８０．８０㎡
延床面積		９，８５５．２１㎡
センターハウス棟	地階	クラフト室
	１階	事務室、食堂（甲斐駒３２７席）、配膳室、第 1 プレイホール、会議室、和室、男女トイレ（1）ほか
中央棟		玄関（花・山の棟）、集会室、男女第1・2浴室、放送室、保健室、 男女トイレ（1）ほか
花の棟		宿泊室１３室１０４名、談話室、喫煙所、男女トイレ（1）ほか
山の棟		宿泊室１２室１０６名、談話室、喫煙所、男女トイレ（1）ほか
鳥の棟	１階	玄関ホール、研修室、第２プレイホール、多目的ホール、倉庫 宿泊室６室２４名、男女トイレ（1）
	２階	宿泊室１０室１４０名、男女トイレ（1）、見晴台（屋上）
村の棟		玄関、談話室、宿泊室１０室９０名、男女トイレ（1）
星の棟	地階	男女浴室、機械室、電気室、乾燥室、男女トイレ（1）ほか
	１階	玄関、星の広場、食堂（北岳７０席）、厨房、テラス、 宿泊室１０室３９名、小浴室、男女トイレ（3）ほか
	２階	宿泊室５室２８名、男女トイレ（1）
ワーキングホール棟		玄関、ワーキングホール（入退所式、雨天時の活動、その他多目的利用） 男女トイレ（1）、乾燥室ほか
屋外施設		野外炊飯場、 バーベキュー場　３００名（かまど３２基・食事テーブル３２卓） アストロハウス　１００名（星座学習施設、 ２０㎝クーデー式天体望遠鏡４台設置） マレットゴルフ場　（１８ホール公認コース） キャンプセンター、自由広場、多目的広場(好天時に退所式等で使用) 野外トイレ　(男女別４か所・身障者用１か所) 第１キャンプファイヤー場　　８０名 第２キャンプファイヤー場　１５０名 野外ステージ　４００名（キャンプ・ファイヤー場併用） テニスコート２面、多目的グランド、市民農園（笹原地区） キャンプ場（3か所、１６０名）、 自然観察コース、健康コース、 駐車場（2か所、大型１８台、小型３２台）ほか

様式例 13　指定管理者制度活用事業　総括評価シート

指定管理者制度活用事業　総括評価シート

評価年月日：令和２年７月１０日

評　価　者：川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会

１．業務概要

施設名	川崎市ハケ岳少年自然の家
指定期間	平成２８年４月１日　～　令和３年３月３１日
業務の概要	・施設設備の管理運営及び維持保全に関すること ・施設設備の利用許可及び提供に関すること ・主催事業の企画実施に関すること ・青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること ・施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること ・その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること
指定管理者	名称　　：一般社団法人富士見パノラマリゾート（旧：一般財団法人富士見町開発公社） 代表者名：理事長　名取 重治 住所　　：長野県富士見町富士見 6666 番地 703
所管課	こども未来局青少年支援室（内線：４３３３１）

２．「評価の視点」に基づく事業期間全体の評価

	評価項目	事業実施状況等
1	市民や利用者に十分な量及び質のサービスを提供できたか。	【事業実績】 （利用者数） 指定管理導入前：85,704 人（平成１７年度） 第１期（H18～22年度）：89,156 人 第２期（H23～27年度）：95,999 人（年度平均） H27 年度は平均算定から除外 （参考）平成２７年度　：52,274 人　※トコジラミ事象発生のため休所期間有 第３期　　：96,256 人（年度平均） 平成２８年度　：95,259 人 平成２９年度　：98,151 人 平成３０年度　：98,421 人 令和元年度　　：92,821 人　※新型コロナウイルス感染症の影響あり 【評価】 メールマガジンの配信、ホームページの更新やラジオでの情報配信、カラー刷りパンフレットの配布に加え、長野県富士見町から赴き、川崎市内のイベントや商業施設等にブースを出展して活動を紹介するなど積極的な広報を行った。 利用者ニーズ把握のためにアンケートの実施また意見箱を設置し、テントサイトなどの内容充実や、蚊取り線香・ゴミ取りローラーの貸し出しなど細やかな要望を含め積極的に取り入れ運営に反映している。結果として、利用者アンケートの満足度の調査については、第３期（令和元年度まで）において９０%以上が「満足」との評価得ている。
2	当初の事業目的を達成することができたか。	【事業目的】 恵まれた自然環境の中で、団体宿泊生活を通して、心身を鍛錬し、もって健全な少年の育成を図る。 【評価】 学校との利用調整を頻繁に行い、ハケ岳の自然豊かな環境を活かした活動について提案を行っており、年間を通して学校団体の利用や市主催事業の開催でスケジュールが密に組まれていた。
3	特に安全・安心の面で問題はなかったか。	法定点検を含め、施設の定期点検を行った。修繕の必要な設備については、指定管理者自ら積極的に対応した。 食物アレルギーへの対応として、事前打ち合わせを行うほか、代替食の提供や誤食を防止するために皿の色分けなど、食への安全にも配慮を行った。 施設が土砂災害警戒区域に一部指定されていることから、毎年度危急時対応マニュアルについて確認・見直し作業を行っている。 平成 27 年度に発生した重大事故の発生を踏まえ、外部の野外活動の専門家をアドバイザーとして招き毎月の安全衛生委員会を実施し、施設における野外活動の指導等に当たってもらっている。

		看護師を常勤職員として配置しており、利用者の緊急時のケガの対応のほか、職員研修の講師として職員の保健衛生面に関する指導、意識付けを行っている。 職員の野外活動の安全に関する資格取得を計画的に行っており、現在では多くの職員がリスクマネジメントに関する資格を取得している。 平成 27 年度の宿泊棟の一部で害虫（トコジラミ）の発生事象を踏まえ、専門業者によるトラップ配置及び定期的な点検を行っている。平成 30 年度にトコジラミの発生疑いの事例があったが、薬剤散布等の必要な処置を迅速に行い、適切に対処している。
4	更なるサービス向上のために、どういった課題や改善策があるか。	施設の老朽化に伴い、改善や補修の必要な設備が増えている。 利用者の安全を確保するためには、指定管理者の日常点検により保守に努めることと、市による長寿命化含めた計画的な整備が必要になっている。また、より安全を担保するためには職員に対する継続的な安全教育と意識付けが求められている。

3．これまでの事業に対する検証

	検証項目	検証結果
1	所管課による適切なマネジメントは行われたか。	【所管課によるマネジメント状況】 年度評価の実施（年１回） 定期的な報告内容の確認（月１回・四半期） 青少年教育施設専門部会（年２回） 電話等及び実地調査の実施（随時） 月例打ち合わせ（月１回） 【評価】 日常の電話等での連絡調整はもちろんのこと、事業評価を通じた適正な業務実施の確認など、適正なマネジメントを行った。また、平成 27 年度のトコジラミ発生事象や重大事故を受け、月例打ち合わせとして、毎月施設の担当者との打ち合わせを実施し、現地調査による改善状況の確認と再発防止の徹底の確認を行っている。 改善した点としては、監査指摘事項を含め、指定管理者が対応するものと市が対応するものとを協議して施設修繕や利用方法の改善を行った。収支予算書・報告書の記載方法については青少年支援室から指導し、指定管理者から訂正した予算書・報告書の提出を受けた。
2	制度活用による効果はあったか。	【経費実績】 〇指定管理料 指定管理制度導入前（H17 年）　：年 294,734 千円 第１期（H18～22年度）　：年 257,838 千円 第２期（H23年度～26年度）　：年 266,560 千円 第３期（H28年度～令和元年度）：年 259,221 千円 〇第３期の収支差額 平成２８年度　：　1,425 千円 平成２９年度　：　2,554 千円 平成３０年度　：10,026 千円 令和元年度　：　9,021 千円 【評価】 利用者数は増加傾向にあり、令和元年度は減少したものの、指定管理導入前に比べ 12.3%増となった。 経費については、指定管理者制度導入前（平成１７年度）は年 294,734 千円、第３期は年平均 259,221 千円であることから、年間 35,513 千円、平成 28 年～令和元年度の 4 年間では、142,052 千円の経費節減効果が認められた。
3	当該事業について、業務範囲・実施方法、経費等で見直すべき点はないか	施設の老朽化による経年劣化の箇所数が増加しており、施設の保全を計画的に行う必要性が高まっている。水道などのインフラに係る大規模な修繕が必要になる可能性があり、その場合は宿泊利用を休止して行う必要も出てくることが予想される。教育委員会事務局生涯学習推進課と連携しながら、効果的な修繕を行っていく。
4	指定管理者制度以外の制度を活用する余地はないか	指定管理者制度の導入により、直営時よりも低いコストで、直営時以上のサービス提供を行うことができている。 本市から離れた長野県に設置している施設で、直営に戻して管理運営を行うことはコスト面から見ても現実的でなく、今後も５年間の指定管理者制度を継続することが望ましい。

４．今後の事業運営方針について

積極的な広報活動により、学校団体の利用が少ない時期についても青少年団体が宿泊し、高い稼働率を維持しており、計画的に修繕を行っているほか、照明のLED化など経費節減にも積極的に取組んでいるなど、指定管理者制度の導入によって、直営時より低いコストで、直営時以上のサービス提供を行うことができている。 また、自然体験活動の機会確保が必要とされている中、本市から離れた長野県に設置している施設で、より財政負担を少なくして管理運営していくためには、引き続き指定管理者制度による運営が適切であると考えられる。 一方、平成27年度のトコジラミ発生事象や重大事故の再発防止を徹底するべく、次期指定管理期間においても、設備や備品の消毒などの衛生管理や安全マニュアルの整備や職員研修の実施などの安全管理における取組状況の確認と指導を重点的かつ継続的に実施していくことはもとより、今後、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた「新しい生活様式」を取り入れて運営していくためには、民間事業者が持つノウハウを最大限に活用して、効果的・効率的な運営を図っていく必要がある。

八ケ岳少年自然の家　利用実績推移・収支実績の推移

（1）利用実績の推移

		利用実績推移			
		利用者数（人）	前年度比	利用団体数（組）	前年度比
第1期	18年度	83,891	▲ 1,813	663	163
	19年度	90,329	6,438	724	61
	20年度	89,725	▲ 604	689	▲ 35
	21年度	92,922	3,197	726	37
	22年度	88,911	▲ 4,011	676	▲ 50
第2期	23年度	92,581	3,670	691	15
	24年度	96,521	3,940	733	42
	25年度	95,767	▲ 754	745	12
	26年度	99,126	3,359	800	55
	27年度	－	－	－	－
第3期	28年度	92,529	－	676	－
	29年度	98,151	5,622	725	49
	30年度	98,421	270	647	▲ 78
	令和元年度	92,821	▲ 5,600	602	▲ 45
	令和2年度	－	－	－	－

（2）収支実績の推移

		収支実績推移		
		収入	支出	差し引き
第1期	18年度	365,872,187	360,824,345	5,047,842
	19年度	361,198,127	357,544,098	3,654,029
	20年度	359,701,295	358,852,173	849,122
	21年度	356,226,778	352,428,504	3,798,274
	22年度	345,942,199	341,387,924	4,554,275
第2期	23年度	349,614,105	344,952,780	4,661,325
	24年度	359,716,697	355,439,386	4,277,311
	25年度	357,055,821	350,744,468	6,311,353
	26年度	385,884,513	377,426,095	8,458,418
	27年度	－	－	－
第3期	28年度	364,602,727	363,177,429	1,425,298
	29年度	366,771,444	364,217,390	2,554,054
	30年度	365,694,187	355,667,420	10,026,767
	令和元年度	363,501,718	354,480,446	9,021,272
	令和2年度	－	－	－

（3）評価点数の推移

		評価点の推移	
		評価点	評価ランク
第1期	18年度	―	―
	19年度	―	―
	20年度	65	C
	21年度	63	C
	22年度	65	C
第2期	23年度	66	C
	24年度	68	C
	25年度	66	C
	26年度	70	B
	27年度	61	C
第3期	28年度	66	C
	29年度	64	C
	30年度	69	C
	元年度	68	C

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ケ岳少年自然の家	評価対象年度	令和元年度
事業者名	・事業者名　一般社団法人富士見町開発公社 ・代表者名　理事長　名取　重治 ・所在地　　長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　92,821　人 （平成30年度：98,793人）	②年間延べ利用団体数　602　団体 （平成30年度:648団体）
収支実績	単位：円 1　収入 指定管理料　261,082,000 利用料金収入　7,344,680 環境収入　2,108,574 その他収入（食堂他）　92,778,403 補償金　188,061 合　計　363,501,718 2　支出 人件費・賃金　115,786,462 光熱水費　39,093,878 委託費　29,456,366 備品購入費　3,236,342 消耗品費　6,538,545 商品仕入れ費　76,494,519 修繕費　13,002,278 その他経費　70,872,056 合　計　354,480,446 3　差引　9,021,272	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・概ね計画通り、事業が実施されていた。施設全体の安全衛生管理にきめ細かく注意を払い、特に野外炊飯やキャンプファイヤー等、火の取扱いの必要なプログラムでは、利用者としっかり打合せをしており丁寧に対応している。また、主に周辺住民向けの「ふじみ星空観察会」や、自然教室に付き添う指導員向けの講習会などの各種主催事業も実施している。 ・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的とした外出自粛などの影響もあり、前指定管理時平均と比較して、約3%減少した。 【参考】第2期指定管理時（平成23年度～平成26年度 ※平成27年度は休止期間があったため平均算定から除外）平均延べ利用者数：96,066人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・金銭管理・会計手続について、規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理されている。また法人における独自の会計監査を月次及び年次で行っており適正な事務に努めている。 ・効率的・効果的な支出について、照明のLED化や、漏水配管の補修工事を行ったことにより、光熱水費の削減を進めた。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設ホームページについて、季節に応じた様々な情報をこまめに更新するなど定期的な広報を行った。スポーツ団体の遠征合宿を誘致するため、利用学校の監督や指導者への積極的声掛けを行った。 ・利用者への対応について、接遇マニュアル、苦情対応マニュアルを定めており、利用者に対する接遇が適切に行われた。 ・学校及び行政機関との連携について、富士見町役場等と連携して川崎市と富士見町の小学5年生同士の交流事業に協力するなど、事業に取り組んでいる。 ・利用者ニーズについては、利用者アンケートのほか、センターハウスと星の棟に設置した意見箱などを用いて、積極的に利用者ニーズの把握に努めた。そうした利用者ニーズの中から、浴室に洗面や棚の掃除用のゴミ取りローラーを設置したり、近年需要が増えている小浴室に介助椅子や混合栓設置などの整備を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、計画どおりに、職員を採用・配置している他、利用者のケガなどに迅速に対応するために看護師を配置している他、自然体験活動における安全確保のため、CONE(自然体験活動推進協議会)リスクマネジャー認定取得を進めている。 ・職員の研修体制について、新型コロナウイルス対策として、看護師を講師とした衛生面に関する研修会を実施し、職員の衛生管理対応の実践的な知識向上に努めている。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守している他、個人情報保護について、全職員を対象に勉強会を実施した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、修繕計画を策定して計画的な修繕に努めた他、計画外の突発的な破損などによる修繕についても、臨機応変かつ迅速に対応した。 ・利用者の安全確保について、各安全マニュアルの改訂作業を行うとともに、月1回程度、安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット対策や危険個所等の対応策を確認している。利用者の活動場所、導線の点検は日々職員が手分けして行い、悪天候後の倒木や通路の破損など危険個所の点検を実施した。 ・災害への対応については、危急時対応マニュアルの改訂作業を行い、土砂災害緊急対応についての部分を整理するほか、台風発生時に危険支障木の除去や大量の落葉処理などについて迅速に対応した。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ケ岳の豊かな自然を活かした様々な事業を展開し、広大な敷地と老朽化の進む施設の管理について、きめ細かく対応している。
また、施設修繕についても、屋内の破損個所のみならず、自然教室に参加している児童が夜間通行する、アストロハウス前の舗装劣化箇所などを改善するなど、事故を未然に防ぐための改修を進めている。
利用者の安全確保に関しては、職員の安全に対する意識、危機管理意識の向上のため、自然体験活動における安全管理の民間資格取得を進めるほか、外部の野外活動の安全アドバイザーの月1回安全衛生委員会の参画また看護師職員の研修会などによる保健衛生面の職員への対応指導などにより継続的な意識付けがなされている。
新型コロナウイルス対策として、看護師資格を持つ職員による衛生管理の研修を実施や職員の衛生管理の認識向上に努めるとともに、手指消毒、予防啓発の掲示、ドアノブなどの多数が触れる箇所の消毒など感染防止対策を適切に行っている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、引き続き、事故防止、災害や緊急時の適切な対応、衛生管理の徹底等、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で適切な施設運営に取り組むこと。自然教室やスキー教室などの学校との連携事業については更なる事業の充実を図るとともに、安全な事業実施、アレルギー・感染症対策などの衛生面での連携についても常に改善を意識し取組むこと。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ケ岳少年自然の家	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名　一般社団法人富士見町開発公社 ・代表者名　理事長　名取　重治 ・所在地　　長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　98,421　人 （平成29年度：98,151人）	②年間延べ利用団体数　647　団体 （平成29年度725団体）
収支実績	単位：円 1　収入 指定管理料　258,600,000 利用料金収入　8,638,720 環境収入　2,295,331 その他収入（食堂他）　96,160,136 合　計　365,694,187 2　支出 人件費・賃金　110,866,278 光熱水費　42,780,662 委託費　30,884,064 備品購入費　3,084,005 消耗品費　6,777,426 商品仕入れ費　78,515,137 修繕費　14,701,245 その他経費　68,058,603 合　計　355,667,420 3　差引　10,026,767	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・概ね計画通り、事業が実施されていた。施設全体の安全衛生管理にきめ細かく注意を払い、特に野外炊飯やキャンプファイヤー等、火の取扱いの必要なプログラムでは、利用者としっかり打合せをしており丁寧に対応している。また、主に周辺住民向けの「ふじみ星空観察会」や、自然教室に付き添う指導員向けの講習会などの各種主催事業も実施している。 ・こうした取組の結果、利用者数は前指定管理時平均と比較して、約3%増加した。 【参考】第2期指定管理時（平成23年度～平成26年度 ※平成27年度は休止期間があったため平均算定から除外）平均延べ利用者数：95,999人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・金銭管理・会計手続について、規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理されている。また法人における独自の会計監査を月次及び年次で行っており適正な事務に努めている。 ・効率的・効果的な支出について、照明のLED化や、灯油の調達先の見直し等により、光熱費の削減を進めた。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・施設ホームページについて、季節に応じた様々な情報をこまめに更新するなど定期的な広報を行うとともに、かわさき市民まつりや青少年フェスティバルに参加して、施設の広報を行っている。 ・利用者への対応については、昨年度に引き続き、苦情対応・CS(顧客満足)研修を実施するなど、積極的に接遇向上に努めた。 ・学校及び行政機関との連携について、富士見町役場等と連携して川崎市と富士見町の小学5年生同士の交流事業に協力するなど、事業に取り組んでいる。 ・利用者ニーズについては、利用者アンケートのほか、センターハウスと星の棟に設置した意見箱などを用いて、積極的に利用者ニーズの把握に努めた。そうした利用者ニーズの中から、電気蚊取りの貸出についての要望があり、不足することのないように機器を追加購入するなどの対応を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、計画どおりに、職員を採用・配置している他、利用者のケガなどに迅速に対応するために看護師を配置している他、自然体験活動における安全確保のため、CONE(自然体験活動推進協議会)リスクマネジメントディレクター、リスクマネジャー認定取得を進めている。 ・職員の研修体制について、概ね計画どおりに、研修が実施されている。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守している他、個人情報保護について、全職員を対象に勉強会を実施した。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、修繕計画を策定して計画的な修繕に努めた他、計画外の突発的な破損などによる危険個所の修繕についても、臨機応変かつ迅速に対応した。 ・利用者の安全確保について、各安全マニュアルの改訂作業を行うとともに、月1回程度、安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット対策や危険個所等の対応策を策定した。また、定期点検や除雪作業を実施し、利用者の動線や活動エリアの安全を確保した。 ・災害への対応については、台風24号の影響により丸2日間にわたり施設全体が停電となったが、関係他施設から食事を搬送するなどの対応により、自然教室を予定どおり受け入れた。また、その時の反省点を踏まえ、館内に最低限の照明を確保するための発電機等を購入した。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	69	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ケ岳の豊かな自然を活かした様々な事業を展開し、広大な敷地と老朽化の進む施設の管理について、きめ細かく対応している。
また、施設修繕についても、屋内の破損個所のみならず、自然教室に参加している児童が夜間通行する、アストロハウス前の舗装劣化箇所などを改善するなど、事故を未然に防ぐための改修を進めている。
利用者の安全確保に関しては、職員の安全に対する意識、危機管理意識の向上のため、自然体験活動における安全管理の民間資格取得を進めるなど、積極的な取組を行っている。
災害対応については、自然教室の運営中に台風による停電が長期化した際、同一法人が運営する他の施設から食事を搬送したり、入浴の受入を検討するなど、地元で複数施設を運営している強みを生かして、臨機応変な対応を行った。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、引き続き、事故防止、災害や緊急時の適切な対応、衛生管理の徹底等、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で適切な施設運営に取り組むこと。特に、職員のCONEリスクマネジメントディレクター、リスクマネジャー認定取得の取組は、野外活動の安全を確保するために有効であり、今後も継続することが望ましい。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名　一般社団法人富士見町開発公社 ・代表者名　理事長　名取　重治 ・所在地　　長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　98,151　人 （平成28年度：95,259人）	②年間延べ利用団体数　725　団体 （平成28年度676団体）
収支実績	単位：円 1　収入 指定管理料　258,600,000 利用料金収入　8,802,796 環境収入　2,024,976 その他収入（食堂他）　97,343,672 合　計　366,771,444 2　支出 人件費・賃金　119,345,553 光熱水費　44,025,905 委託費　30,615,070 消耗品費　7,158,348 商品仕入れ費　81,278,032 修繕費　11,952,987 その他経費　69,841,495 合　計　364,217,390 3　差引　2,554,054	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、職員研修を実施し、研修成果を新たなプログラム作成につなげるなどサービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） ・概ね計画通り、事業が実施されていた。施設全体の安全衛生管理にきめ細かく注意を払い、特に野外炊飯やキャンプファイヤー等、火の取扱いの必要なプログラムでは、利用者としっかり打合せをしており丁寧に対応している。また、「ふじみ星空観察会」では、アストロハウスにおいて、季節ごとに星の観察に関する学習するプログラムを行っている。 ・こうした取組の結果、利用者数は前指定管理時平均と比較して、約2%増加した。 【参考】第2期指定管理時（平成23年度～平成26年度 ※平成27年度は休止期間があったため平均算定から除外）平均延べ利用者数：95,999人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） ・金銭管理・会計手続について、規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理されている。また法人における独自の会計監査を月次及び年次で行っており適正な事務に努めている。 ・効率的・効果的な支出について、LED化による電気代の削減や漏水箇所の修理等で経費削減を進めた。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) ・メールマガジンの配信や、利用案内を図書館等に配架するなど定期的な広報を行うとともに、青少年フェスティバルをはじめ各種イベントの参加による啓発等を行っている。 ・利用者への対応については、昨年度に引き続き、苦情対応・CS(顧客満足)研修を実施し、顧客満足に関する学習を2回に分けて全職員が受講するとともに、施設全体で利用者への対応に関する課題を共有するなど、積極的に接遇向上に努めた。 ・学校及び行政機関との連携について、自然教室やプログラム実施において小中学校や富士見町役場等と連携し、事業に取り組んでいる。 ・利用者ニーズについては、利用者アンケートを実施しているほか、新たにセンターハウスと星の棟に意見箱を設置し、積極的に利用者ニーズの把握に努めた。そうした利用者ニーズの中から、テントサイトの充実や環境整備の要望があり、テントの買い替えや枝の剪定、間伐等を実施するなどの対応を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) ・適正な人員配置について、計画どおりに、職員を採用・配置している。 ・職員の研修体制について、概ね計画どおりに、研修が実施されている。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守し、個人情報の取扱いについて、適切な運用を行った。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、委託専門業者による定期点検や故障個所の修理、倒木撤去等、必要な補修工事を適切に実施した。 ・利用者の安全確保について、各安全マニュアルの改訂作業を行うとともに、月1回程度、安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハット対策や危険個所等の対応策を策定した。また、定期点検や除雪作業を実施し、利用者の動線や活動エリアの安全を確保した。 ・防犯対策について、富士見町及び消防署等、関係機関からの情報を収集に努めるとともに、定期的な警備、消灯時の施錠等、防犯対策を実施した。 ・災害時対応マニュアルの作成状況については、災害への対応について、全職員に対し、行動手順の指導や訓練を行っている。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	64	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

広大な敷地と様々な施設の管理についてきめ細かく対応している。例えば利用者が障子紙を破ってしまった場合の対応について、修理方法を掲示し材料を備え、自らが楽しく修繕できるよう仕組みを整えるなど、教育施設の特徴を生かして施設での生活や体験そのものが教育に通じるような仕掛けを多く工夫している。また、施設修繕のための職員を配置し、室内の危険個所や敷地内の水路(U字溝)の改修など軽易な修繕箇所についてこまめにチェックし改善を行っている。 利用者の安全確保に関しては、安全委員会を毎月開催しながら、職員の安全に対する意識、危機管理意識の向上が図られているほか、富士見消防署と研修や防災訓練等において十分に連携し、消防設備関係の整備も積極的に行っている。アレルギーへの対応についても利用者との事前打ち合わせを複数回行い、食器やトング等専用のものを用意するなど、適切な取り組みが行われている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、利用者の安全を第一に事故、災害の防止、緊急時の適切な対応など、利用者が安全、安心して楽しめる施設となるよう、職員、法人一丸となって適切な施設運営に取り組んでほしい。
また、衛生管理については、八ヶ岳少年自然の家の施設内だけでなく、取引業者も含め、地元保健所とも連携して対策を徹底すること。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名　一般社団法人富士見町開発公社 ・代表者名　理事長　小林 一彦 ・所在地　　長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数　95,259人 （平成27年度：52,274人）	②年間延べ利用団体数　676団体 （平成27年度：800団体）
収支実績	単位：円 1　収入 指定管理料　258,600,000 利用料金収入　8,549,580 環境収入　2,258,580 その他収入（食堂他）　95,194,567 合　計　364,602,727 2　支出 人件費・賃金　104,044,726 光熱水費　42,108,517 委託費　29,435,554 消耗品費　7,041,111 商品仕入れ費　82,527,914 修繕費　9,753,250 その他経費　88,266,357 合　計　363,177,429 3　差引　1,425,298	
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、職員研修を実施し、研修成果を新たなプログラム作成につなげるなどサービス向上に取り組んでいる。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	（評価の理由） 主催事業の「森の探検団」では、小屋づくりや野外はんごうなどを通し、自然への理解を深め、親子や家族間の交流を図ったほか、「自然紀行　ぐるっとハイキング」では、季節ごとに八ヶ岳周辺のハイキングコースを歩き、八ヶ岳の自然を楽しみながら、健康増進を図るなど、概ね計画どおりの事業が実施されていた。 利用者数は、延べ利用団体数は減少したが、前指定管理時平均に比べ、約7%増加した。 【参考】　第2期指定管理時(平成23年度～平成27年度)平均延べ利用者数：87,253人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） 金銭管理・会計手続については、規則等に従い、適切に処理されている。 効率的・効果的な支出について、ろ過機を更新して水の再利用を進めた結果、平成26年比で7,076m^3、約142万円削減するなど、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) 施設・事業の広報について、約200名の登録者に対し、毎月メールマガジンを発行し、主催事業の募集を行っているほか、富士見町から川崎市に赴き、青少年フェスティバル等の各種イベントに参加し、クラフト体験を実施するとともに、施設パンフレットの配布や主催事業の募集を行うなど、施設の認知度を高めるための広報活動を実施した。 利用者への対応について、接遇マニュアル、苦情対応マニュアルを定めており、利用者に対する接遇が適切に行われた。 学校及び行政機関との連携については、川崎市や富士見町の学校関係団体と積極的に連携するとともに、農業体験などの地域との協力関係を維持するなど、川崎市と富士見町の友好関係がより発展するよう連携・協力が図られている。 また、利用者ニーズを把握するため利用者アンケートを実施し、その結果について定期的に改善を検討するなど、利用者の意見や要望を施設管理や事業運営に反映している。			
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) 人員配置については、看護師を配置し、利用者のケガなどに迅速に対応したほか、大型特殊免許やフォークリフト、ボイラーなどの資格を持つ職員を配置したことで、施設の設備点検、維持補修を適切に行っており、資格を持った職員の知識や経験が事業に活かされている。 研修については、職員のスキルアップを図るために必要な研修を行うとともに、キャンプ実習で学んだノウハウを、新たな主催事業である自然体験事業「キッズ自然探検隊」に反映したほか、インタープリター研修では、自然体験の伝え方を学んだことを活かして「森のセラピーウォーキング」という新たなプログラムを作成するなど、研修の成果を新たな事業や業務改善につなげた。 個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守し、個人情報の取扱いについて、適切な運用を行った。			
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	5	5
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) 施設・設備の保守管理については、日常点検及び専門業者による定期点検の実施により必要な維持管理が行われているほか、倒木の撤去やU字溝の整備など、安全に配慮して修繕を行っており、施設・設備の保守点検や必要な補修工事が適切に実施されている。 利用者の安全確保について、安全管理マニュアルの改訂を行ったほか、野外調理、自然体験活動、危険生物、リスクマネジメント、救急講習など、独自に利用者の安全確保に関する様々な研修を実施するとともに、事故防止のため安全委員会を毎月開催し、職員が業務中に気づいた危険箇所の対策などについて検討し、改善を図っている。 防犯対策について、毎日3回の敷地内定期巡回警備を行うとともに、利用者以外の入所者については入所許可証を発行する運用を行うなど、不審者侵入防止等の取組がなされている。 災害への対応については、危急時対応マニュアルを整備し、避難訓練を実施したほか、火災報知器の取扱いについて研修を実施するとともに、消火器の追加整備、非常灯や感知器の更新など、火災の発生に備え、消防設備関係の整備を積極的に行った。			

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ヶ岳の自然を十分に生かした事業を展開し、施設の特性を発揮した適切な運営をしており、利用者アンケートに基づく適切な改善を実施することで、満足度・利便性の向上に取り組んでいる。
また、職員のスキルや知識向上のため、多様な研修を実施しているだけなく、研修で得た知識を事業運営に反映させているところは評価できる。
利用者の安全確保に関しては、各種マニュアルの整備・見直しに加え、災害対策や事故防止についての様々な研修を実施するとともに、安全委員会を毎月開催し、職員の安全に対する意識、危機管理意識の向上が図られているほか、富士見消防署と研修や防災訓練等において十分に連携し、消防設備関係の整備も積極的に行うなど、適切な取り組みが行われている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、利用者の安全を第一に事故、災害の防止、緊急時の適切な対応など、利用者が安全、安心して楽しめる施設となるよう、職員、法人一丸となって適切な施設運営に取り組んでほしい。
また、衛生管理については、八ヶ岳少年自然の家の施設内だけでなく、取引業者も含め、地元保健所とも連携して対策を徹底すること。

川崎市八ケ岳少年自然の家　収支報告書　収支状況確認シート（令和元年度）

団体名　一般社団法人富士見町開発公社

	科目名	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
4113	施設売上	売上計	368,692,000	372,136,000	3,444,000	1%		363,501,087	-8,634,913	-2%	
	指定管理料	指定管理料	258,600,000	261,082,000	2,482,000	1%		261,082,000	0	0%	
	利用料	条例第１３条に定める利用料金収入	9,552,000	9,638,558	86,558	1%		7,344,680	-2,293,878	-24%	コロナ影響を含めた利用者数の減少
	利用料（感染症対策対応分）		0	50,442	50,442	#DIV/0!		0	-50,442	-100%	コロナ関係のキャンセル料の不徴収分の減
	食堂収入	食堂の食事提供に係る収入	87,398,000	88,660,000	1,262,000	1%	前年度より利用増を含み増額を見込んだ	83,353,892	-5,306,108	-6%	コロナ影響を含む自然教室４校キャンセル及び一般利用者数の減少
	売店収入	物品販売(自動販売機含む)に係る収入	9,927,000	10,623,000	696,000	7%		9,423,880	-1,199,120	-11%	コロナ影響を含む自然教室４校キャンセル及び一般利用者数の減少
	環境収入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代、その他	3,215,000	2,082,000	-1,133,000	-35%	前年度ベースで見込んだ	2,108,574	26,574	1%	
	補償金		0	0	0	#DIV/0!		188,061	188,061	#DIV/0!	新型コロナウイルス感染症対策補償金
	純売上高		368,692,000	372,136,000	3,444,000	1%		363,501,087	-8,634,913	-2%	
	期首棚卸	期首棚卸計			0			3,552,393	3,552,393		
	食堂原材料仕入	食堂の食事提供に係る仕入	84,408,000	75,361,000	-9,047,000	-11%	前年度実績ベースで見込んだ	66,872,874	-8,488,126	-11%	コロナ影響を含む自然教室４校キャンセル及び一般利用者数の減少による仕入れ減
	売店商品仕入	物品販売(自動販売機含む)に係る仕入	8,379,000	8,817,000	438,000	5%		7,291,198	-1,525,802	-17%	コロナ影響を含む自然教室４校キャンセル及び一般利用者数の減少による仕入れ減
	環境仕入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代に係る仕入	2,894,000	1,611,000	-1,283,000	-44%	前年度ベースで見込んだ	3,027,804	1,416,804	88%	フォレストチップ、薪の乾燥による先行仕入れによる増額
5211	商品仕入れ高	商品仕入れ計	95,681,000	85,789,000	-9,892,000	-10%	前年度ベースで見込んだ	77,191,876	-8,597,124	-10%	
	期末棚卸	期末棚卸計			0			4,249,750	4,249,750		
	売上原価		95,681,000	85,789,000	-9,892,000	-10%		76,494,519	-9,294,481	-11%	
	売上総利益		273,011,000	286,347,000	13,336,000	5%		287,006,568	659,568	0%	
6111	給与賃金	正規職員の賃金	31,050,000	25,546,835	-5,503,165	-18%	給与水準の増額を見込んだが至らなかった為減	28,352,640	2,805,805	11%	人事異動による人件費増変動の為
6112	旅費交通費	業務に係る職員等の出張旅費及び交通費	749,000	770,000	21,000	3%		831,360	61,360	8%	
6113	広告宣伝費	求人広告、ピンバッチ作成、来場記念品購入	192,000	370,000	178,000	93%	看板設置を新たに計画した為	163,764	-206,236	-56%	施設看板設置を計画していたが見積り調整がつかなった為
6114	印刷費	パンフレット、所報、封筒、利用の手引き	263,000	404,000	141,000	54%	団体配布のプログラム資料作成費用の増額を見込んだ	279,900	-124,100	-31%	パンフレットなどの印刷部数を減調整した為
6115	運　賃	忘れ物・チラシ配布などの宅急便代	92,000	17,000	-75,000	-82%	内容を大幅に見直したため減額見込みとした	9,141	-7,859	-46%	宅配の減少
6117	使用料	無線電波利用料、コピー機、富士見町有線放送、ETC使用料、駐車場代、他	1,689,000	1,733,000	44,000	3%		2,039,244	306,244	18%	
6118	図書費	新聞購読料、書籍購入費	249,000	215,000	-34,000	-14%		142,837	-72,163	-34%	必要な図書に絞り込んだ
6119	臨時雇賃金	契約社員、臨時職員、パート、アルバイトの賃金・手当	57,602,000	64,897,000	7,295,000	13%	前年度ベースで見込んだ	66,750,500	1,853,500	3%	短期及び臨時雇用増員、手当増額となった為
	給与賃金賃金（感染症対策対応分）	宿直スタッフ職員手当		28,165	28,165	#DIV/0!		0	-28,165	-100%	感染症対策対応分として減額となったため
6212	研修費	キープ協会インタープリター、他	181,000	366,000	185,000	102%	職員等のスキルアップ研修をふやした為。	359,074	-6,926	-2%	
6215	賃借料	寝具・リネン・精算機・車両・無線機他	9,728,000	7,669,000	-2,059,000	-21%	寝具リース期間満了で寝具物品取得となった為	8,085,056	416,056	5%	
6216	修繕費	施設修理、畳表替、LED化、他	8,560,000	11,550,000	2,990,000	35%	前年度（30年度）実績ベースにて予算計上した為。	13,002,278	1,452,278	13%	予定外の漏水調査費及び仕切り弁の設置工事の為増額
6217	事務用品費	ゴム印	47,000	22,000	-25,000	-53%	前年度（30年度）実績ベースにて予算計上した為。	13,714	-8,286	-38%	見込支出より減額であった為
6218	通信費	電話代、切手代、振込手数料、ネット回線利用料	1,034,000	1,144,000	110,000	11%		1,145,201	1,201	0%	
6219	水道光熱費	水道料、電気代、プロパンガス、灯油代	56,207,000	43,878,000	-12,329,000	-22%	前年度（30年度）実績ベースにて予算計上した為。	39,093,878	-4,784,122	-11%	漏水対策工事による水道量減少及びLED化計画による減額及び利用者減
6221	租税公課	印紙代、車検時の重量税	215,000	223,000	8,000	4%		89,700	-133,300	-60%	リース車両による重量税等の減額の為
6222	負担金	各協会費、退職給与及び事務負担金、検便検査代	10,479,000	24,611,000	14,132,000	135%	提案当時の見込違いで本社経費が必要な為	24,713,070	102,070	0%	
6223	交際費		32,000	0	-32,000	-100%	支出科目の見直しにつき計上しなかった為	0	0	—	
6224	保険料	施設賠償責任保険、火災保険、自動車保険、	2,702,000	2,428,000	-274,000	-10%		1,989,688	-438,312	-18%	
6225	消耗品費	修繕道具、紙、トイレットペーパー、電球、他	3,671,000	7,035,000	3,364,000	92%	提案当初の見込み違い	5,897,608	-1,137,392	-16%	利用者減による減額変動
	消耗品費（感染症対策対応分）		0	0	0	#DIV/0!		115,184	115,184	#DIV/0!	感染症対策消耗品の購入
6226	福利厚生費	集団健康診断、インフルエンザ予防接種、他	459,000	586,000	127,000	28%	安全管理資格の取得の為（大型特殊）	687,276	101,276	17%	
6227	業務用品費	ユニフォーム、長ぐつ、車イス、他	3,062,000	80,000	-2,982,000	-97%	別の項目で備品費を分けた為	512,039	432,039	540%	職員のユニフォーム、立入禁止看板を新設した為
6228	会議費	打合せ費用	121,000	28,000	-93,000	-77%	提案当社の見込み違い	0	-28,000	-100%	支出が無かった為
6229	車両費	公用車のガソリン代、軽油代、車検代、タイヤ、他	3,534,000	3,481,000	-53,000	-1%		2,868,983	-612,017	-18%	
6230	備品費	2万円以上の購入品	0	2,950,000	2,950,000	#DIV/0!	H３１年度からの追加科目の為	3,185,742	235,742	8%	
	備品費（感染症対策対応分）		0	0	0	#DIV/0!		50,600	50,600	#DIV/0!	感染症対策備品の購入
6311	職員手当	正規職員の時間外、賞与、各種手当	19,860,000	20,653,000	793,000	4%		20,683,322	30,322	0%	
6312	法定福利費	社会保険、労働保険の公費分	13,224,000	11,686,000	-1,538,000	-12%		12,305,571	619,571	5%	
6313	委託料	設備管理、消防設備、清掃、ごみ処理、電気保安、衛生害虫他防除、他	28,540,000	28,248,000	-292,000	-1%		29,456,366	1,208,366	4%	備品処分費、危険木伐採費による増額
6314	雑　費	スズメバチ駆除、他	67,000	339,000	272,000	406%	危険有害生物駆除費用なども含めた見込み	25,000	-314,000	-93%	駆除費用が抑えられた為
6231	諸会費	クレジット年会費	27,000	0	-27,000	-100%	費用を見込まなかった	2,700	2,700	#DIV/0!	費用を見込まなかった
	消費税	支払い消費税	18,400,000	18,060,000	-340,000	-2%		15,134,491	-2,925,509	-16%	売上減、費用減の為
	販売費及び一般管理費		272,036,000	279,018,000	6,982,000	3%		277,985,927	-1,032,073	0%	
	営業利益		975,000	7,329,000	6,354,000	652%		9,020,641	1,691,641	23%	
7111	受取利息	金融機関の受取利息	13,000	13,000	0	0%		631	-12,369	-95%	
	営業外収益		13,000	13,000	0	0%		631	-12,369	-95%	
	営業外費用		0	0	0			0	0		
	経常利益		988,000	7,342,000	6,354,000	643%		9,021,272	1,679,272	23%	

団体名　一般社団法人富士見町開発公社

川崎市八ヶ岳少年自然の家　収支報告書　収支状況確認シート（平成30年度）

	科目名	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
4113	施設売上	売上計	366,788,000	366,773,700	-14,300	0%		365,694,187	-1,079,513	0%	
	指定管理料	指定管理料	258,600,000	258,600,000	0	0%		258,600,000	0	0%	
	利用料	利用料金	9,412,000	10,449,730	1,037,730	11%	一般及び団体の集客増の見込みを立てた.	8,638,720	-1,811,010	-17%	予想以上の利用人数減少の為
	食堂収入	食堂の食事提供に係る収入	85,804,000	83,952,970	-1,851,030	-2%	自然教室の収入増を見込んだ	86,642,730	2,689,760	3%	自然教室の利用が増であった。
	売店収入	仕様書に基づく物品販売に係わる収入、公衆電話、クリーニング	9,780,000	10,607,000	827,000	8%		9,517,406	-1,089,594	-10%	一般利用が減少した為
	環境収入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代、その他	3,192,000	3,164,000	-28,000	-1%		2,295,331	-868,669	-27%	主催事業減少、キャンプファイヤーの利用がキャンドルファイヤーへシフトした為
	純売上高		366,788,000	366,773,700	-14,300	0%		365,694,187	-1,079,513	0%	
	期首棚卸	期首棚卸計			0			2,116,050	2,116,050		
	食堂原材料仕入	食堂の食事提供に係る食材購入等の仕入	82,862,000	82,153,700	-708,300	-1%		68,249,701	-13,903,999	-17%	一般利用減による仕入れ減
	売店商品仕入	物品販売(自動販売機含む)に係る仕入	8,254,000	8,193,000	-61,000	-1%		7,576,294	-616,706	-8%	
	環境仕入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代、その他に係る仕入	2,873,000	2,848,000	-25,000	-1%		4,125,485	1,277,485	45%	薪の乾燥による先行仕入れによる増額
5211	商品仕入れ高		93,989,000	93,194,700	-794,300	-1%		79,951,480	-13,243,220	-14%	一般利用減の為
	期末棚卸	期末棚卸計			0			3,552,393	3,552,393		
	売上原価		93,989,000	93,194,700	-794,300	-1%		78,515,137	-14,679,563	-16%	一般利用減による減
	売上総利益		272,799,000	273,579,000	780,000	0%		287,179,050	13,600,050	5%	
6111	給与賃金	職員に支払う賃金	31,050,000	28,490,000	-2,560,000	-8%	給与水準の増額を見込んだが至らなかった為減	25,572,120	-2,917,880	-10%	１名が退職した事による減額
6112	旅費交通費	業務に係る職員等の出張旅費及び交通費	749,000	867,000	118,000	16%		765,806	-101,194	-12%	
6113	広告宣伝費	施設内看板、パンフレット作成、求人広告、その他	192,000	203,000	11,000	6%		220,142	17,142	8%	
6114	印刷費	パンフレット印刷、所報印刷、封筒印刷、利用の手引き	263,000	434,000	171,000	65%	団体配布のプログラム資料作成費用の増額を見込んだ	384,665	-49,335	-11%	
6115	運　賃	忘れ物・チラシ配布などの宅急便代	92,000	15,000	-77,000	-84%	内容を大幅に見直したため減額見込みとした	882	-14,118	-94%	集配などの活用による減額
6117	使用料	コピー機、富士見町有線放送、ETC使用料、駐車場代、他	1,689,000	2,334,000	645,000	38%	コピー機使用料、高速料金増額見込み	1,936,988	-397,012	-17%	
6118	図書費	新聞購読料、書籍購入費	249,000	151,000	-98,000	-39%	前年度（29年度）実績ベースにて予算計画した為。	110,582	-40,418	-27%	購入図書内容を一部変更した為
6119	臨時雇賃金	契約社員、臨時職員、パート、アルバイトの賃金・手当	57,602,000	57,790,000	188,000	0%		65,534,516	7,744,516	13%	短期及び臨時雇用増員、手当増額となった為
6212	研修費	職員に対する教育訓練に要した費用	181,000	350,000	169,000	93%	スキルアップを考えた為。	230,740	-119,260	-34%	参加人数の変動による減額
6214	減価償却費	減価償却	0	2,085,000	2,085,000	#DIV/0!		0	-2,085,000	-100%	３０年度決算より削除
6215	賃借料	寝具・リネン・精算機・車両・無線機などの賃料	9,728,000	6,954,000	-2,774,000	-29%	実績ベースではあるが、寝具リース終了後であり、減額の見込みとした。	7,646,026	692,026	10%	
6216	修繕費	建物、設備及び備品等の修繕又は原状復帰の為の費用	8,560,000	11,950,000	3,390,000	40%	前年度（29年度）実績ベースにて長寿命化を計画した為。	14,701,245	2,751,245	23%	監査指摘工事も含め修繕費増額。
6217	事務用品費	ゴム印などの事務に係る費用	47,000	11,000	-36,000	-77%	前年度（29年度）実績ベースにて予算計上した為。	1,512	-9,488	-86%	費用の減額
6218	通信費	電話代、切手代、振込手数料	1,034,000	1,084,000	50,000	5%		1,143,201	59,201	5%	
6219	水道光熱費	水道料、電気代、プロパンガス、灯油代	56,207,000	50,155,000	-6,052,000	-11%	前年度（29年度）実績ベースにて予算計上した為。	42,780,662	-7,374,338	-15%	契約変更による経費減額及び利用減の為
6221	租税公課	印紙代、車両車検時の重量税、未払い消費税	215,000	215,000	0	0%		122,500	-92,500	-43%	公用車の車検台数変動による減額
6222	負担金	本社事務負担金、食品衛生関連	10,479,000	22,370,000	11,891,000	113%	ほぼ前年度ベースで本社経費が必要な為	24,024,770	1,654,770	7%	外部積立の退職金積立金を手厚くした為増とした。
6223	交際費		32,000	0	-32,000	-100%	必要性の見直を試みた為	0	0	#DIV/0!	必要性の見直を試みた為
6224	保険料	施設賠償責任保険、火災保険、自動車保険	2,702,000	1,732,000	-970,000	-36%	前年度（29年度）実績ベースで見込んだ	1,921,010	189,010	11%	
6225	消耗品費	用紙、トイレットペーパー、電球、その他	3,671,000	8,333,000	4,662,000	127%	前年度（29年度）実績ベースで見込んだ	6,777,426	-1,555,574	-19%	利用者減による減額
6226	福利厚生費	職員の健康診断の費用、その他	459,000	509,000	50,000	11%		640,430	131,430	26%	安全管理上の資格取得をした為増
6227	業務用品費	キャンプ用品などのプログラム用資材、ユニフォーム	3,062,000	672,000	-2,390,000	-78%	必要最小限の経費を見込んだ	3,084,005	2,412,005	359%	災害実績を踏まえた災害対策用発電機購入の為増額
6228	会議費	お茶お菓子代、その他	121,000	25,000	-96,000	-79%	前年度（29年度）実績ベースで見込んだ	0	-25,000	-100%	執行が無かった
6229	車両費	ガソリン代、軽油代、車検代、車両維持の為の費用	3,534,000	3,660,000	126,000	4%		4,089,279	429,279	12%	
6311	職員手当	職員に支払う時間外・賞与などの諸手当	19,860,000	18,500,000	-1,360,000	-7%	給与水準の増額を見込んだが至らなかった為減	19,759,642	1,259,642	7%	時間外勤務手当増額の為
6312	法定福利費	法令に基づき負担する健康、年金、労働などの保険料の公費分	13,224,000	11,836,000	-1,388,000	-10%	給与水準の増額を見込んだが至らなかった為減	11,708,468	-127,532	-1%	
6313	委託料	設備管理、消防設備、清掃、ごみ処理、電気保安、衛生害虫他防除、その他	28,540,000	29,936,000	1,396,000	5%	産廃及びゴミ処理費増などを見込んだ	30,884,064	948,064	3%	
6314	雑　費	スズメバチ駆除、テレビ・冷蔵庫などのリサイクル料、その他	67,000	176,000	109,000	163%	危険有害生物駆除費用なども含めた見込み	589,500	413,500	235%	特殊建物定期検査費用分の増
6231	諸会費		27,000	0	-27,000	-100%	費用を見込まなかった	2,700	2,700	#DIV/0!	必要経費支払用クレジットカードの年会費
	消費税	未払い消費税	18,400,000	11,306,640	-7,093,360	-39%	例年実績に合した見込み金額とした	12,519,402	1,212,762	11%	販管費が増えた為
	販売費及び一般管理費		272,036,000	272,143,640	107,640	0%		277,152,283	5,008,643	2%	
	営業利益		763,000	1,435,360	672,360	88%		10,026,767	8,591,407	599%	
7111	受取利息	金融機関の受取利息	13,000	13,000	0	0%		733	-12,267	-94%	
	営業外収益		13,000	13,000	0	0%		733	-12,267	-94%	
	営業外費用		0	0	0			0	0		
	経常利益		776,000	1,448,360	672,360	87%		10,027,500	8,579,140	592%	

団体名　一般社団法人富士見町開発公社

川崎市八ヶ岳少年自然の家　収支報告書　収支状況確認シート（平成２９年度）

	科目名	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因 【20%かつ100万円以上差が生じた場合に記入】	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因 【20%かつ100万円以上差が生じた場合に記入】
4113	施設売上	売上計	364,644,000	364,644,000	0	0%		366,771,444	2,127,444	1%	
	指定管理料	指定管理料	258,600,000	258,600,000	0	0%		258,600,000	0	0%	
	利用料他	条例第１３条に定める利用料金収入	9,343,000	9,343,000	0	0%		8,802,796	-540,204	-6%	
	食堂収入	食堂の食事提供に係る収入	83,830,000	83,830,000	0	0%		86,832,336	3,002,336	4%	
	売店収入	物品販売(自動販売機含む)に係る収入	9,707,000	9,707,000	0	0%		10,511,336	804,336	8%	
	環境収入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代、その他	3,164,000	3,164,000	0	0%		2,024,976	-1,139,024	-36%	主催事業、キャンプファイヤーの減
	純売上高		364,644,000	364,644,000	0	0%		366,771,444	2,127,444	1%	
	期首棚卸	期首棚卸			0			1,905,758	1,905,758		
	食堂原材料仕入	食堂の食事提供に係る仕入	80,924,000	80,924,000	0	0%		71,631,265	-9,292,735	-11%	
	売店商品仕入	物品販売(自動販売機含む)に係る仕入	8,193,000	8,193,000	0	0%		8,333,104	140,104	2%	
	環境仕入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代に係る仕入	2,848,000	2,848,000	0	0%		1,523,955	-1,324,045	-46%	主催事業、キャンプファイヤーの減
5211	商品仕入れ高	商品仕入れ計	91,965,000	91,965,000	0	0%		81,488,324	-10,476,676	-11%	
	期末棚卸	期末棚卸			0			2,116,050	2,116,050		
	売上原価		91,965,000	91,965,000	0	0%		81,278,032	-10,686,968	-12%	
	売上総利益		272,679,000	272,679,000	0	0%		285,493,412	12,814,412	5%	
6111	給与賃金	正規職員の賃金	31,050,000	31,050,000	0	0%		29,390,300	-1,659,700	-5%	
6112	旅費交通費	業務に係る職員等の出張旅費及び交通費	749,000	749,000	0	0%		755,341	6,341	1%	
6113	広告宣伝費	求人広告、ピンバッチ作成、来場記念品購入	192,000	192,000	0	0%		288,668	96,668	50%	
6114	印刷費	パンフレット、所報、封筒、利用の手引き	263,000	263,000	0	0%		280,065	17,065	6%	
6115	運　賃	忘れ物・チラシ配布などの宅急便代	92,000	92,000	0	0%		1,210	-90,790	-99%	
6117	使用料	無線電波利用料、コピー機、富士見町有線放送、ETC使用料、駐車場代、他	1,689,000	1,689,000	0	0%		1,964,296	275,296	16%	
6118	図書費	新聞購読料、書籍購入費	249,000	249,000	0	0%		107,197	-141,803	-57%	
6119	臨時雇賃金	契約社員、臨時職員、パート、アルバイトの賃金・手当	57,602,000	57,602,000	0	0%		61,410,346	3,808,346	7%	
6212	研修費	キープ協会インタープリター、NEAL養成講座、他	181,000	181,000	0	0%		77,000	-104,000	-57%	
6214	減価償却費	減価償却	0	0	0			1,715,246	1,715,246		川崎市直営当時からの減価償却資産分
6215	賃借料	寝具・リネン・精算機・車両・無線機、簡易トイレ、他	9,728,000	9,728,000	0	0%		6,930,729	-2,797,271	-29%	車両を再リースにしたことによる減
6216	修繕費	バーベキュー場、山の棟屋根、漏水、LED化、他	8,560,000	8,560,000	0	0%		11,952,987	3,392,987	40%	BBQ場の改修、ＬＥＤ照明への交換による増
6217	事務用品費	ゴム印	47,000	47,000	0	0%		15,606	-31,394	-67%	
6218	通信費	電話代、切手代、振込手数料、ネット回線利用料	1,034,000	1,034,000	0	0%		1,113,105	79,105	8%	
6219	水道光熱費	水道料、電気代、プロパンガス、灯油代	56,207,000	56,207,000	0	0%		44,025,905	-12,181,095	-22%	漏水の量、電気料金の値下がりによる減
6221	租税公課	印紙代、重量税	215,000	215,000	0	0%		199,150	-15,850	-7%	
6222	負担金	各協会費、公園使用料、退職給与及び事務負担金、検便検査代	10,479,000	10,479,000	0	0%		24,486,764	14,007,764	134%	本社事務負担の自然の家分
6223	交際費	打合せ費用	32,000	32,000	0	0%		0	-32,000	-100%	
6224	保険料	施設賠償責任保険、火災保険、自動車保険、主催事業傷害保険	2,702,000	2,702,000	0	0%		1,806,690	-895,310	-33%	
6225	消耗品費	厨房用具、コピー用紙、トイレットペーパー、電球、他	3,671,000	3,671,000	0	0%		7,158,348	3,487,348	95%	厨房用具の交換、LED証明への交換による増
6226	福利厚生費	集団健康診断、インフルエンザ予防接種、他	459,000	459,000	0	0%		552,241	93,241	20%	
6227	業務用品費	ユニフォーム、長ぐつ、車イス、他	3,062,000	3,062,000	0	0%		2,602,046	-459,954	-15%	
6228	会議費	打合せ時のお茶代	121,000	121,000	0	0%		8,852	-112,148	-93%	
6229	車両費	ガソリン代、軽油代、車検代、タイヤ、他	3,534,000	3,534,000	0	0%		3,125,688	-408,312	-12%	
6311	職員手当	正規職員の時間外、賞与、各種手当	19,860,000	19,860,000	0	0%		28,544,907	8,684,907	44%	野外炊事場への職員配置の増による増
6312	法定福利費	社会保険、労働保険の公費分	13,224,000	13,224,000	0	0%		11,909,855	-1,314,145	-10%	
6313	委託料	設備管理、消防設備、清掃、ごみ処理、電気保安、衛生害虫他防除、他	28,540,000	28,540,000	0	0%		30,615,070	2,075,070	7%	
6314	雑　費	スズメバチ駆除、ゴミ処理代	67,000	67,000	0	0%		289,124	222,124	332%	
6231	諸会費	クレジットカードの年会費	27,000	27,000	0	0%		2,700	-24,300	-90%	
	消費税	支払い消費税	18,400,000	18,400,000	0	0%		11,609,926	-6,790,074	-37%	前年度実績に寄る為
	販売費及び一般管理費		272,036,000	272,036,000	0	0%		282,939,362	10,903,362	4%	
	営業利益		643,000	643,000	0	0%		2,554,050	1,911,050	297%	
7111	受取利息	金融機関の受取利息	13,000	13,000	0	0%		617	-12,383	-95%	
	営業外収益		13,000	13,000	0	0%		617	-12,383	-95%	
	営業外費用		0	0	0			0	0		
	経常利益		656,000	656,000	0	0%		2,554,667	1,898,667	289%	

団体名　一般社団法人富士見町開発公社

川崎市八ヶ岳少年自然の家　収支報告書　収支状況確認シート（平成２８年度）

	科目名	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
4113	施設売上	売上計	362,775,000	362,775,000	0	0%		364,602,727	1,827,727	1%	
	指定管理料	指定管理料	258,600,000	258,600,000	0	0%		258,600,000	0	0%	
	利用料他	条例第１３条に定める利用料金収入	9,275,000	9,275,000	0	0%		8,549,580	-725,420	-8%	
	食堂収入	食堂の食事提供に係る収入	82,079,000	82,079,000	0	0%		84,881,900	2,802,900	3%	ファミリー食の増加等
	売店収入	物品販売(自動販売機含む)に係る収入	9,635,000	9,635,000	0	0%		10,312,667	677,667	7%	
	環境収入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代、その他	3,186,000	3,186,000	0	0%		2,258,580	-927,420	-29%	
	純売上高		362,775,000	362,775,000	0	0%		364,602,727	1,827,727	1%	
	期首棚卸	期首棚卸計			0			23,804,545	23,804,545		
	食堂原材料仕入	食堂の食事提供に係る仕入	79,207,000	79,207,000	0	0%		72,947,092	-6,259,908	-8%	仕入先の変更等
	売店商品仕入	物品販売(自動販売機含む)に係る仕入	8,132,000	8,132,000	0	0%		8,208,769	76,769	1%	
	環境仕入	主催事業、クラフト材・キャンプ・キャンドルファイヤー、炉代に係る仕入	2,867,000	2,867,000	0	0%		1,570,477	-1,296,523	-45%	ファイヤー・クラフト材の仕入単価の変更等
5211	商品仕入れ高	商品仕入れ計	90,206,000	90,206,000	0	0%		82,726,338	-7,479,662	-8%	
	期末棚卸	期末棚卸計			0			24,002,969	24,002,969		
	売上原価		90,206,000	90,206,000	0	0%		82,527,914	-7,678,086	-9%	
	売上総利益		272,569,000	272,569,000	0	0%		282,074,813	9,505,813	3%	
6111	給与賃金	正規職員の賃金	31,050,000	31,050,000	0	0%		28,593,200	-2,456,800	-8%	1名退職の為
6112	旅費交通費	業務に係る職員等の出張旅費及び交通費	749,000	749,000	0	0%		839,253	90,253	12%	
6113	広告宣伝費	求人広告、ピンバッチ作成、来場記念品購入	192,000	192,000	0	0%		1,708,786	1,516,786	790%	求人広告の増加、来場記念品の購入
6114	印刷費	パンフレット、所報、封筒、利用の手引き	263,000	263,000	0	0%		599,367	336,367	128%	
6115	運　賃	忘れ物・チラシ配布などの宅急便代	92,000	92,000	0	0%		17,379	-74,621	-81%	
6117	使用料	無線電波利用料、コピー機、富士見町有線放送、ETC使用料、駐車場代、他	1,689,000	1,689,000	0	0%		1,801,903	112,903	7%	
6118	図書費	新聞購読料、書籍購入費	249,000	249,000	0	0%		148,318	-100,682	-40%	
6119	臨時雇賃金	契約社員、臨時職員、パート、アルバイトの賃金・手当	57,602,000	57,602,000	0	0%		56,407,989	-1,194,011	-2%	季節により弊社内での人員の異動をした為
6212	研修費	キープ協会インタープリター、NEAL養成講座、他	181,000	181,000	0	0%		382,300	201,300	111%	
6214	減価償却費	減価償却	0	0	0			2,082,401	2,082,401		川崎市直営当時からの減価償却資産
6215	賃借料	寝具・リネン・精算機・車両・無線機、簡易トイレ、他	9,728,000	9,728,000	0	0%		7,577,428	-2,150,572	-22%	布団リースの終了、リネンの消費が少なかった為
6216	修繕費	バーベキュー場、山の棟屋根、漏水、LED化、他	8,560,000	11,028,800	2,468,800	29%	バーベキュー場の改修を見込んで	9,753,250	-1,275,550	-12%	年度末の支払いのズレがあったが予定の修繕等は完了
6217	事務用品費	ゴム印	47,000	47,000	0	0%		11,124	-35,876	-76%	
6218	通信費	電話代、切手代、振込手数料、ネット回線利用料	1,034,000	1,034,000	0	0%		1,067,477	33,477	3%	
6219	水道光熱費	水道料、電気代、プロパンガス、灯油代	56,207,000	56,207,000	0	0%		42,108,517	-14,098,483	-25%	漏水、電気代の減少、灯油代の上昇が無かった為等
6221	租税公課	印紙代、重量税	215,000	215,000	0	0%		186,800	-28,200	-13%	
6222	負担金	各協会費、公園使用料、退職給与及び事務負担金、検便検査代	10,479,000	10,479,000	0	0%		31,126,840	20,647,840	197%	事務負担金、H29に始まるマイクロバスリース料のリース前払い金
6223	交際費		32,000	32,000	0	0%		0	-32,000	-100%	
6224	保険料	施設賠償責任保険、火災保険、自動車保険、主催事業傷害保険	2,702,000	2,702,000	0	0%		1,686,510	-1,015,490	-38%	保険代の見直しが有った為
6225	消耗品費	修繕道具、紙、トイレットペーパー、電球、他	3,671,000	3,671,000	0	0%		7,041,111	3,370,111	92%	第２プレーホールカーテン交換、修繕の為の材料購入
6226	福利厚生費	集団健康診断、インフルエンザ予防接種、他	459,000	459,000	0	0%		489,153	30,153	7%	
6227	業務用品費	ユニフォーム、長ぐつ、車イス、他	3,062,000	6,993,200	3,931,200	128%	バーベキュー場の改修を見込んで	9,829,999	2,836,799	41%	バーベキュー場の改修に伴うベンチ、厨房用品の経年化による交換等の購入の為
6228	会議費	打合せ費用	121,000	121,000	0	0%		24,110	-96,890	-80%	
6229	車両費	ガソリン代、軽油代、車検代、タイヤ、他	3,534,000	3,534,000	0	0%		4,822,729	1,288,729	36%	パジェロ除雪機修理の為
6311	職員手当	正規職員の時間外、賞与、各種手当	19,860,000	19,860,000	0	0%		19,043,537	-816,463	-4%	
6312	法定福利費	社会保険、労働保険の公費分	13,224,000	13,224,000	0	0%		11,638,950	-1,585,050	-12%	1名退職に伴う社会保険等の公費負担分の減
6313	委託料	設備管理、消防設備、清掃、ごみ処理、電気保安、衛生害虫他防除、他	28,540,000	28,540,000	0	0%		29,435,554	895,554	3%	
6314	雑　費	スズメバチ駆除、ゴミ処理代	67,000	67,000	0	0%		175,500	108,500	162%	
6231	諸会費		27,000	27,000	0	0%		0	-27,000	-100%	
	消費税	支払い消費税	18,400,000	12,000,000	-6,400,000	-35%	前年実績に寄る為	12,050,030	50,030	0%	
	販売費及び一般管理費		272,036,000	272,036,000	0	0%		280,649,515	8,613,515	3%	
	営業利益		533,000	533,000	0	0%		1,425,298	892,298	167%	
7111	受取利息	金融機関の受取利息	13,000	13,000	0	0%		724	-12,276	-94%	
	営業外収益		13,000	13,000	0	0%		724	-12,276	-94%	
	営業外費用		0	0	0			0	0		
	経常利益		546,000	546,000	0	0%		1,426,022	880,022	161%	

川崎市子ども夢パーク　施設概要

名　　称	川崎市子ども夢パーク
位　　置	川崎市高津区下作延５丁目３０番１号
構　　造	鉄筋鉄骨コンクリート造
規　　模	地上２階
敷地面積	９，８７１．７６㎡
建築面積	１，８２７．５７㎡
１階施設	管理運営室（事務室・男女更衣室・男女シャワー室） エレベーター（１）　　男女トイレ（２）　多目的トイレ（１） 全天候広場　　器具庫　倉庫（３） スタジオＡ　スタジオＢ　フリースペース（２）
２階施設	学習交流スペース　事務室　倉庫　男女トイレ（１） 多目的トイレ（１）　多目的ルーム バルコニー（全天候広場上部）
屋　　外	屋外広場　ログハウス　せせらぎ　外周回路　井戸（２） 駐輪場　駐車場　ゴミ置き場　フェンス・防球ネット 植栽（高木：さわら約４０本、高中木：ハナミズキ・ヤマモモほか約２００本、低木：ヤマハギほか約３，８００本）

指定管理者制度活用事業　総括評価シート

評価年月日：令和２年７月１０日

評　価　者：川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会

１．業務概要

施設名	川崎市子ども夢パーク
指定期間	平成２８年４月１日　～　令和３年３月３１日
業務の概要	・施設設備の管理運営及び維持保全に関すること ・施設設備の利用許可及び提供に関すること ・主催事業の企画実施に関すること ・青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること ・施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること ・その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること
指定管理者	名称　：川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 代表者：公益財団法人川崎市生涯学習財団　理事長　渡邊　直美 住所　：川崎市中原区今井南町 28-41　　電話：733-5560 構成員：特定非営利活動法人フリースペースたまりば　理事長　西野　博之
所管課	こども未来局青少年支援室（内線：４３３４１）

２．「評価の視点」に基づく事業期間全体の評価

	評価項目	事業実施状況等
１	市民や利用者に十分な量及び質のサービスを提供できたか。	（事業実績） 【利用者数】 指定管理者制度の導入前（平成１７年度）：44,806 第１期（平成１８年度～平成２２年度平均）：69,296 第２期（平成２３年度～平成２７年度平均）：88,839 第３期　平成２８年度：88,544 平成２９年度：87,290 平成３０年度：87,103 平成３１年度：88,963 （評価） ・指定管理者制度の導入以来、高い利用者数が維持されている。 ・「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づき、子どもの意見を尊重した事業運営を展開することで、サービス向上が図られている。 ・子どもの権利や施設の理念、活動の様子、イベント情報等について、広報紙、ホームページ、新聞テレビ各社への取材依頼等により広報・啓発を実施しているほか、多数の市内外からの視察、見学を受け入れることで、より広範囲な広報が実施されている。 ・水遊びや泥遊びでおとなから幼児まで楽しめる「夢パまつり」、企画運営を子どもたち自身が行う「こどもゆめ横丁」、音楽スタジオ利用者有志によるライブイベント事業、かわさき子どもの権利の日事業への参画等を恒例行事として毎年開催することで、青少年の健全育成が図られている。
２	当初の事業目的を達成することができたか。	（事業目的） ・子どもが遊び、及び夢を育（はぐく）む場並びに子どもの活動の拠点及び居場所を提供するとともに、子どもの自主的及び自発的活動を支援することにより、それぞれの子どもに応じた成長及び子どもの地域等における活動への参加の促進に寄与すること。 （評価） ・仕様書等に定める指定管理業務の適正かつ円滑な執行、主催事業の実施、不登校児童生徒対策業務の実施、川崎市政や地域団体への協力等により、事業目的を達成することができている。 ・当初の事業実施計画のほかにも、子どもの意見を尊重して新規に事業を展開するなど、利用者ニーズが事業運営に反映されている。
３	特に安全・安心の面で問題はなかったか。	（安全・安心に関する取組） ・日常点検や巡回等により、構造、施行、維持管理の不備による危険等を除去することで、利用者の安全を確保している。 ・防犯マニュアル等の周知徹底とともに、地元の防犯ネットワークに登録して常時情報収集ことなどにより、防犯対策を行っている。 （評価） ・仕様書等に定める業務を適正に執行し、安全・安心の面で問題はなかった。 ・事故が発生した場合、速やかな対応がされており、事故原因を検証し、点検を重点的に行うなど、再発防止が図られている。

４	更なるサービス向上のために、どういった課題や改善策があるか。	施設の設置目的を達成するため、引き続き指定管理者の専門性を事業運営に活用するよう努める必要がある。

３．これまでの事業に対する検証

	検証項目	検証結果
１	所管課による適切なマネジメントは行われたか。	事業報告書等によるモニタリングのほか、管理運営についての調整や問題発生時の対応についての指導等、必要なマネジメントを適切に行った。 【所管課によるマネジメント状況】 年度評価の実施（年１回） 定期的な報告内容の確認（月１回・四半期） 青少年教育施設専門部会の開催（年２回） 電話及び訪問による連絡、調整、指導等の実施（随時）
２	制度活用による効果はあったか。	制度導入後、充実した事業展開の成果が表れており、平成３１年度の利用者数は導入前（平成１７年度）の約 98.6%増となっている。 平成３１年度の経費は導入前（平成１７年度）の約 21.7%増に留まっており、利用者数が約２倍に増加したことと比較すると効果的に運営されたことが認められる。 【利用者数】 平成１７年度：44,806 平成３１年度：88,963 【経費実績】 平成１７年度：62,557 千円 平成３１年度：76,131 千円
３	当該事業について、業務範囲・実施方法、経費等で見直すべき点はないか	不登校児童生徒対策業務を執行する、「フリースペースえん」については、今後、さらなる需要の高まりが見込まれるところ、当該業務の範囲や実施方法について見直しを行う必要がある。
４	指定管理者制度以外の制度を活用する余地はないか	指定管理者の専門性を事業運営に活用することでサービス向上が図られており、経費の増加に比較して利用者数は大幅に増加している。 同水準の事業を指定管理者制度以外の制度で執行することは困難であるため、引き続き指定管理者制度を活用することが適当である。

４．今後の事業運営方針について

指定管理者制度の導入により、直営時以上のサービス提供を行うことができた。
また、行政機関や地域団体等との連携を図るとともに、利用者ニーズを事業運営に反映させることなどもできた。
今後、子どもの遊び場や居場所、不登校児童生徒対策への需要の高まりが見込まれる中で、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた「新しい生活様式」を取り入れながら子どもたちの安全・安心を確保し、より財政負担を少なくして管理運営していくためには、引き続き指定管理者制度によることが望ましい。

川崎市子ども夢パーク　利用実績・収支実績の推移

（1）利用実績の推移

		利用者数（人）	前年度比	利用団体数（組）	前年度比
第1期	平成18年度	64,626	19,820	631	274
	19年度	64,292	▲ 334	639	8
	20年度	65,775	1,483	704	65
	21年度	71,919	6,144	681	▲ 23
	22年度	79,868	7,949	752	71
第2期	23年度	81,715	1,847	752	0
	24年度	85,597	3,882	652	▲ 100
	25年度	93,550	7,953	749	97
	26年度	91,437	▲ 2,113	908	159
	27年度	91,895	458	769	▲ 139
第3期	28年度	88,544	▲ 3,351	825	56
	29年度	87,290	▲ 1,254	754	▲ 71
	30年度	87,103	▲ 187	755	1
	31年度	88,963	1,860	731	▲ 24
	令和2年度	―	―	―	―

（2）収支実績の推移

		収入	支出	差し引き
第1期	平成18年度	62,402,000	61,070,028	1,331,972
	19年度	62,402,000	63,417,557	▲ 1,015,557
	20年度	62,426,550	62,116,426	310,124
	21年度	62,402,000	61,848,123	553,877
	22年度	62,402,000	63,973,667	▲ 1,571,667
第2期	23年度	62,288,510	62,005,365	283,145
	24年度	62,333,330	62,116,784	216,546
	25年度	62,393,090	62,265,506	127,584
	26年度	67,873,097	67,867,409	5,688
	27年度	64,708,729	63,300,715	1,408,014
第3期	28年度	69,654,000	69,654,000	0
	29年度	69,654,000	69,270,016	383,984
	30年度	69,781,210	69,180,850	600,360
	31年度	76,499,000	76,130,703	368,297
	令和2年度	–	–	–

（3）評価点数の推移

		評価点の推移	
		評価点	評価ランク
第1期	18年度	―	―
	19年度	―	―
	20年度	63	C
	21年度	67	C
	22年度	67	C
第2期	23年度	64	C
	24年度	75	C
	25年度	72	B
	26年度	72	B
	27年度	70	B
第3期	28年度	73	B
	29年度	73	B
	30年度	73	B
	元年度	74	B

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	平成31年度
事業者名	・事業者名　川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名　公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長　渡邊　直美 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名　特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長　西野　博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:88,963人 （平成30年度:87,103人）	②年間延べ利用団体数:731団体 （平成30年度:755団体）
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　76,499,000 雑収入　0 補償金　6,690 合　計　76,505,690 2　支出 人件費・賃金　43,257,015 光熱水費　3,067,015 委託費　8,783,696 消耗品費　2,842,242 修繕費　2,922,918 その他経費　15,257,817 合　計　76,130,703 3　差引　374,987	
サービス向上の取組	「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づいた事業執行のため、行政機関や地域団体等との連携を図るとともに、利用者ニーズを事業運営に反映させるなどサービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念（子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等）の実現が図られているか。	5	5	5
	（評価の理由） 事業推進については、冒険遊び場（プレーパーク）事業において、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切にし、遊びを制限するような禁止事項をできるだけつくらず、子どもが自分で決めたり危険を判断したりできるようになることを大切にして遊びを支援した。また、不登校児童生徒の居場所事業において、いつでも、どこでも、誰でも学べるという生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる不登校児童生徒の居場所「フリースペースえん」を運営した。特に今年度は、9月から新たに「ゆるりであそぼう、話そう会」として、保護者の不安の解消や親子の出会いの場を目指して元保育士のボランティアが、乳幼児親子向けに絵本の読み聞かせや手遊び、育児に関する相談を受けるなど特色のある取組を行った。 事業成果については、利用者数が、前指定管理時平均（88,839人）並みの88,963人だった。 条例の理念の実現については、子どものSOSをキャッチできる環境、関係機関やネットワークに子どもをつなげていける環境など子どもたちが安心して過ごすことができる環境を整えるとともに、積極的に子どもが参画できる「子どもの居場所」の実現に向けて、スタッフの研修題材として「子ども参画」を取り上げてグループワークなどで理解を深め、認識と現状把握をするなどスタッフの力量向上等に力を入れた。特に今年度は、子どもの権利の日事業において、子どもからの意見表明や発案の場として、11月6日から11月20日まで「みんなの声」掲示板を作成し、子どもが声を出しやすい環境を整備した。また、「フリースペースえん」では、講師を招いて「みんなで語ろう『子どもの権利』」を開催し、子どもたちと共に子どもの権利に関するワークショップを行い、7つの権利について考えるなどの取組を行った。				
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	（評価の理由） 適正な人員配置については、利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員を計画どおりに採用・配置している。 職員の研修体制については、夢パークの理念の研修、プレーリーダーの養成研修など子どもの最善の利益を優先し、子どもの権利を全面的に保障することを目的とした運営のための研修を年度内に76回実施した。特に今年度は、内部研修として年間を通して実施した「子ども参画」についての内容を活かし、「こどもゆめ横丁」において出店以外の企画や運営側にまわりたい子どもたちが集まり、「横丁楽しくしよう会（YTK）」としての活動ができるよう必要な支援をするなど研修の成果を事業運営に反映した。 個人情報等の取扱については、個人情報保護方針が整備されるとともに、個人情報保護責任者が設置されており、個人情報漏洩等のトラブルがなかった。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) 施設・事業の広報については、夢パークの理念や活動の様子、イベント情報などを広く子どもや市民に周知するため、広報紙等の発行と配布、ホームページの情報の充実、施設内の掲示板を用いた利用者へのイベントの告知や企画の呼びかけ、子育てネットワーク等のイベントでの広報などの取組を行った。また、イベント情報は新聞やテレビ各社に取材、広報依頼し、イベントの趣旨や子どもたちの様子などを広く知ってもらうよう努めるなど積極的に行っている。 利用者への対応については、傾聴のスタンスを基本としながら適切な態度、言葉で接することで良好な接遇が図られ、利用者からの要望に適切に対応した。 学校及び行政機関との連携については、地元町内会との意見交換会を開催し、それぞれの年間計画や課題等を共有することで互いの主催イベントで相互に連携、協力して継続的に交流しているほか、積極的にボランティアの育成及び確保の機会を設け、ボランティアの有効活用を図った。また、地元の小中学校への訪問、交流、遠足等の受け入れ、講師としての登壇、文部科学省による会議等への参加、川崎市・高津区の施策にかかわる会議への参加(特に、高津区子ども・子育てネットワークでは所長が委員長を務めた。)、子どものセーフティーネット構築における関係機関との協働、連携など多方面において積極的な連携強化が図られている。 利用者ニーズについては、毎月、利用者懇談会を開催し、夢パーク利用者の声を聞く機会を設けるとともに、イベント時にアンケートを実施して満足度調査を行い、利用者の意見・要望等を適宜調査することで積極的に把握を行った。スタジオ利用者による運営委員会を一年を通して随時開催し、1コマの時間、予約方法などスタジオの使い方やスタジオ利用者ライブなどイベントについて子どもが主体となって行った。夢パーク最大の子ども参加イベント「こどもゆめ横丁」に向けて、当日の企画、運営に関する話し合いを行い、子どもの声を活かしたイベント開催に努めたほか、特に今年度は、「横丁に出店する以外の形で参加したい」「もっと横丁を盛り上げたい」などの声が子どもたちからあがったため、話し合いを重ねて「横丁楽しくしよう会(YTK)」を発足させ、新しい形での子ども参画とするなど子どもの声を事業運営に十分反映している。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	5	5
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) 施設・設備の保守管理については、修繕計画を作成して計画的に修繕を行っている。特に今年度は、利用者ニーズに対応するため、各部屋の床の張り替え工事を行うなど事業計画で予定していたより多くの修繕を積極的に実施している。 利用者の安全確保については、夢パークの冒険や挑戦のできるという特徴的な機能を確保しながら、構造、施工、維持管理の不備による危険など物的ハザードの除去に努めた。その際には、物的リスク・人的リスクの観点からも子どもたちの動きについて発達段階を考慮に入れ、事故がどの場所で起こりうるか、どのような事故防止策が必要かなどを総合的に判断するための研修・指導を独自にスタッフ全員に対して実施した。 防犯対策については、防犯マニュアルや緊急対応を各スタッフが理解できるように務め、不審者侵入防止等の取組をしている。 災害への対応については、災害時、緊急時の措置基準を作成するとともに、職員に非常放送システム、火災処理機能の教育を行い、適宜必要な想定訓練を実施した。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) 適切な金銭管理・会計手続については、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 効率的・効果的な支出については、計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	74	評価ランク	B

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

条例の理念の実現のため、子どもの参加の促進や子どもの居場所の確保等について継続的に特段の取組を行っている。子どもの自主的及び自発的活動を支援することにより、それぞれの子どもに応じた成長及び子どもの地域等における活動への参加の促進等に寄与しており、その事業執行は優れている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後とも、子どもの居場所を提供するとともに、子どもの自主的及び自発的活動を支援すること。特に、子どもの安全、安心には十分に配慮し、引き続き定期的に設備の点検を行うとともに、事故等が発生した場合に適切な対応が行われるよう職員への教育を実施して事業執行すること。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名　川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名　公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長　山田　雅太 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名　特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長　西野 博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:87,103人 （平成29年度:87,290人）	②年間延べ利用団体数:755団体 （平成29年度:754団体）
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　69,654,000 雑収入　127,210 合　計　69,781,210 2　支出 人件費・賃金　38,035,054 光熱水費　3,153,466 委託費　8,972,479 消耗品費　2,236,076 修繕費　3,135,572 その他経費　13,648,203 合　計　69,180,850 3　差引　600,360	
サービス向上の取組	川崎市子どもの権利に関する条例の理念に沿った事業展開を実施した。また、利用者や地域住民の意見を運営に反映させ、サービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか 計画どおり事業が実施されているか	5	4	4
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念（子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等）の実現が図られているか。	5	5	5
	（評価の理由） 冒険遊び場（プレーパーク）事業や音楽スタジオ事業において、子どもたちの「やってみたい」という気持ちを大切にし、遊びを制限するような禁止事項をできるだけつくらず、子どもが自分で決めたり危険を判断したりできるよう、子どもたちの遊びを支援した。特に今年度は、7月23日に開催した172人の参加による「夢パーク15周年おたんじょうび会」をはじめ、施設15周年にちなんだ複数の事業を通年で実施するなど特色のある取組を行った。 不登校児童生徒の居場所事業において、いつでも、どこでも、誰でも学べるという生涯学習の視点に立ち、誰もが安心して過ごせる不登校児童生徒の居場所「フリースペース えん」の運営を行った。 利用者数及び利用団体数は、前指定管理時平均（88,839人、766団体）並みの87,103人、755団体だった。 子どもの権利条例の理念の実現にあたっては、「子どもの最善の利益」を重視した質の高い運営のため、子どもたちが安心して過ごすことができる環境を整えるとともに、積極的に子どもが参画できる「子どもの居場所」の実現に向けて、スタッフの力量向上を目指す研修等を行った。子どもが自分たちの居場所を自分の頭で考え、自分たちの手で仲間やおとなと協力して、主体的につくり続けていくことを支援することなどにより、「KUJI ROCK」、「こどもゆめ横丁」等の事業において子どもの参加する権利の保障を推進するなど特段の取組を行った。 子どもの権利の日事業への参画等による条例の理念の周知に関わる取組、子どものSOSをキャッチできる環境づくり、関係機関に子どもをつなげていける環境づくり等の取組も推進した。			
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	（評価の理由） 利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員を配置した。近隣大学や社会福祉系・教育学系の大学生の実習やインターンシップ、ボランティアの積極的な受け入れを通じて、夢パークの理念を理解してもらい、次期職員につながるような若い人材を養成した。 夢パークの理念の研修、プレーリーダーの養成研修など、施設の特長と子どもの最善の利益を優先し、子どもの権利を全面的に保障することを目的とした運営のための研修を年度内に74回実施した。各個人が参加した研修の内容等は他のスタッフと共有し、特に今年度は、年間を通して実施した「子どもの参画について」の研修内容を活かして「こどもゆめ横丁」等の様々な事業の企画段階から子どもの参画を促すなど、事業運営に反映させている。 個人情報保護の管理・監督体制を整備しており、個人情報漏えい等のトラブルはなかった。			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	5	10
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	（評価の理由） 定期的な広報誌の発行及び新聞・テレビ・ラジオ・情報誌等を利用した積極的な広報・啓発活動を行った。特に今年度は、「夢パークつうしん」において施設設立15年を振り返る特集を毎号組み、最終号ではまとめとして15周年事業紹介、所長の挨拶、「特別付録年表すごろく」等による広報を行った。また、学校、他自治体、海外等からの視察・見学を頻繁に受け入れ、夢パークの理念や取組を広く市内外にアピールし、子どもの権利条例の周知とともに川崎市の取組や認知度の向上を図った結果、視察・見学件数は170となった。 利用者に対する良好な接遇が図られ、要望等に適切に対応した。 地元町内会との意見交換会を開催して年間計画を紹介し、互いの事業において連携して交流を推進しているほか、地元の小・中学校への訪問・交流・遠足等の受け入れ、国の施策に関わる協力・連携、川崎市・高津区の施策に関わる会議への参加等も積極的に行った。「フリースペースえん」では、子どもたちの在籍校と連絡を取り合い、出席状況の報告や子どもの活動の様子などを伝え、先生の訪問による面談を通じて情報交換を行い、出席報告件数は51となった。 傾聴のスタンスを基本とした子どもとの日常的な対話や利用者懇談会、利用者アンケート等により積極的にニーズを把握し、事業運営に十分反映させた。特に今年度は、子どもたちの「やってみたい」の声から始まり、企画、広報、会場の準備など子どもが中心となって打合せを繰り返し、「I-VAN（アイバン）と夢パでヤーマン！」プロジェクトを実施した。また、「お掃除大作戦」や「メンテナンスの会」の実施等、利用者の意見を施設管理にも反映させている。			
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	（評価の理由） 大型ハンモックの大規模補修や防砂ネット設置等、施設・設備の保守点検や必要な補修工事については、修繕計画を作成して計画的に行った。 冒険や挑戦ができるという夢パークの特徴的な機能を確保しながら、物的ハザード（構造、施工、維持管理の不備による危険）の除去に努めた。リスクとハザードについての研修を独自に実施し、物的リスク・人的リスクの観点から子どもたちの動きについて発達段階を考慮に入れ、事故がどの場所で起こりうるか、どのような事故防止策が必要かを総合的に判断し、対応を行った。事故原因を検証し、類似の事故が生じないように、点検を重点的に行い、事故の再発防止に努めた。さらに、小さな事故であってもケガをした子ども及び保護者に対するアフターフォローをするように配慮した。 防犯マニュアルや緊急対応の周知徹底を行い、地元町内会や地域団体と連携して防犯に関する情報収集を常時行った。 地元町内会や地域団体と連携した避難訓練や消防訓練を適正に実施し、「川崎市地域防災計画」を踏まえた災害発生時のマニュアル等を整備している。			
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	（評価の理由） 仕様書等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理した。 計画に基づいた適切な収入・支出がなされ、支出に見合う効果が得られている。				

注）配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	73	評価ランク	B

注）評価点：100点満点。評価ランク：5段階評価
A(80点以上)：特に優れている、B(70点以上80点未満)：優れている、
C(60点以上70点未満)：適正である、D(50点以上60点未満)：改善が必要である、
E(50点未満)：問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行（管理運営）に対する全体的な評価

子どもの権利条例の理念に基づく施設である夢パークは、子どもの自主的な取組を尊重し、自発的活動を支援すること等により、それぞれの子どもに応じた成長及び地域活動への参加の促進等に寄与、条例を具現化する施設としての運営を行なっている。また、不登校児童生徒の居場所について、「フリースペースえん」で指定管理者の専門性及び人的ネットワーク等を活かした様々な活動が行われている。自由な遊び場及び地域における子どもの居場所等の需要が高まる中で、利用者ニーズを積極的に把握して柔軟な事業執行が図られていることは、高く評価できる。

6. 来年度の事業執行（管理運営）に対する指導事項等

子どもの自主的、自発的活動の支援及び居場所づくりのため、子どもの安全、安心には引き続き十分に配慮し、地域と連携して適切な管理運営を行うとともに、子どもの権利条例及び施設の理念を職員間で共有して事業執行すること。また、広報媒体の活用等により施設及び事業の周知に努め、子どもの権利条例の理念を具現化する施設としての役割を来年度も十分に担うこと。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名　川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名　公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長　山田　雅太 川崎市中原区今井南町28-41 ・構成員名　特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長　西野 博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:87,290人 （平成28年度:88,544人）	②年間延べ利用団体数:754団体 （平成28年度:825団体）
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　69,654,000 合　計　69,654,000 2　支出 人件費・賃金　39,162,690 光熱水費　3,182,327 委託費　8,915,023 消耗品費　1,866,540 修繕費　1,336,283 その他経費　14,807,153 合　計　69,270,016 3　差引　383,984	
サービス向上の取組	川崎市子どもの権利に関する条例の理念に沿った事業展開を実施した。また、利用者や地域住民の意見を運営に反映させ、サービス向上に取り組んだ。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか 計画どおり事業が実施されているか	5	3	3
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念（子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等）の実現が図られているか。	5	5	5
	（評価の理由） 子どもたちの育ちに応じ「遊び」をつくり出すことを尊重して「自分の責任で自由に遊ぶ」という理念を持つプレーパークを設置・運営し、そこでの活動を通して子どもも大人も共に成長できる環境を整備した。子どもの「やってみたい」という気持ちを尊重し、自主性や協調性を育む取組「夢パまつり」、「こどもゆめ横丁」等を展開した。また、様々な問題を抱える子どもや若者を受け入れ、彼らが安心して自由に過ごせる居場所の運営を行った。これらの取組について新聞、テレビ、ラジオ、地域情報誌等を利用し、イベント及び自主企画事業並びに活動の様子を発信、取材を積極的に受け入れ、夢パークの理念、活動の様子を伝え、認知度の向上を図るとともに利用を促進した。利用者数及び利用団体数は、それぞれ前指定管理時平均の88,839人、766団体並みだった。 子どもの権利条例の理念の実現にあたっては、子どもの自主的及び自発的な参加活動拠点づくりを積極的に行った。「KUJI ROCK」、「こどもゆめ横丁」や、子どもの要望に基づくイベント「夏のミニイベント」を開催する等、参加する権利（条例第15条）の保障を推進した。不登校児童生徒の居場所である「フリースペースえん」の運営等による子どもの居場所の支援（条例第27条）を推進した。また、子どもの権利の日事業への参画、子どものSOSをキャッチできる環境及び関係機関等に子どもをつなげていける環境づくり等の取組も推進した。			
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	（評価の理由） 安全・安心な子どもの居場所づくりのため、事業実施に必要な人員が配置された。 施設の理念に関する研修、市民協働に関する研修など、施設の特徴と子どもの最善の利益を優先させた運営のための研修を、年度内に70回開催して職員のスキルアップを図った。特に、子ども参画についての研修の成果を「こどもゆめ横丁」等の事業に反映させた。 個人情報等の取扱については、適切な運用がなされ、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	5	5
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	5	10
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) 定期的な広報誌の発行及び新聞・テレビ・ラジオ・情報誌等を利用したPR等の積極的な広報を行った。特に、今年度はウェブサイトの充実を図り、新たにサイト内検索を追加するなどウェブアクセシビリティへの対応を始め、施設・イベントの紹介を行った。また、国、地方自治体、学校、市民活動団体等の視察を頻繁に受け入れ、積極的に情報発信した結果、視察の受け入れ件数が平成28年度の154から190までの26%増となった。 利用者に対する接遇について、接遇研修等により職員のスキルアップを図り、適切に対応した。 地元の町内会・自治会との意見交換会を開催して運営に反映させているほか、川崎市及び高津区の会議への出席、職員・教員の研修等を受け入れるなど、行政等との連携を積極的に行った。地元の小・中学校への訪問及び受け入れ並びに町内会・自治会の協力によるイベントの開催等、地域とも積極的に連携して交流を進めた。不登校児童の居場所事業について、学校及び区役所・児童相談所等の福祉機関と連携して子どもの状況を把握・共有して支援した。 傾聴を重視した子どもとの日常的な対話及び利用者懇談会並びに利用アンケート等によりニーズを把握し、イベントの内容や施設の運営方法、利用方法等に反映させた。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) 利用者の安全を確保するため、日常点検及び毎月の定期的な点検を入念に行い、修繕の必要な箇所を把握して適切な修繕を行った。感染症予防等の衛生管理も適切に行った。 リスクとハザードに関する研修を独自に実施し、職員による巡回、子どもが見えにくい位置の危険(釘がとび出ている等)の除去の徹底等により、事故を防止した。事故等が発生した場合のマニュアルが整備され、保護者との連絡を丁寧に行う等、適切な対応がされた。 緊急時及び災害発生時のマニュアルを作成し、職員には非常放送システム等の防災システム教育を行い、適宜必要な想定訓練を実施している。今年度は防災倉庫を設置し、防災備蓄を整備した。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) 施設と財団で役割分担を行う等、仕様書に基づき適正に会計処理された。 ゴミの持ち帰りの徹底、廃材や不要物品の受入等により、経費削減が行われた。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	73	評価ランク	B

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念に基づく象徴的な施設であるこの夢パークは、子どもの、子どもによる、子どものための施設として子どもの自主的な取組を尊重し、その自発的活動を支援すること等により、それぞれの子どもに応じた成長及び子どもの地域活動への参加の促進等に寄与、子どもの権利条例を具現化する施設としての運営を行なっている。また、不登校児童生徒の居場所について、「フリースペースえん」で指定管理者の専門性及び人的ネットワーク等を活かした様々な活動が行われている。自由な遊び場及び地域における子どもの居場所等の需要が高まる中で、利用者ニーズを十分に把握して柔軟な事業執行が図られていることは、非常に高く評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

子どもの自主的、自発的活動の支援及び居場所づくりのため、子どもの安全・安心には引き続き十分配慮し、地域と連携して適切な管理運営を行うとともに、子どもの権利条例及び施設の理念を職員間で共有して事業執行すること。また、広報媒体の活用等により施設及び事業の周知に努め、子どもの権利条例の理念を具現化する施設としての役割を来年度も十分に担うこと。

指定管理者制度活用事業　評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市子ども夢パーク	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名　川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ・代表者名　公益財団法人川崎市生涯学習財団 理事長　金井 則夫 川崎市中原区今井南町514-1 ・構成員名　特定非営利活動法人 フリースペースたまりば 理事長　西野 博之 川崎市高津区千年435-10	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ～ 平成33年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数:88,544人 （平成27年度:91,895人）	②年間延べ利用団体数:825団体 （平成27年度:769団体）
収支実績	1　収入　　単位:円 指定管理料　69,654,000 合　計　69,654,000 2　支出 人件費・賃金　36,489,026 光熱水費　3,136,134 委託費　9,406,963 消耗品費　2,820,177 修繕費　3,707,631 その他経費　14,094,069 合　計　69,654,000 3　差引　0	
サービス向上の取組	川崎市子どもの権利に関する条例の理念に沿った事業展開を実施していた。また、利用者や地域住民の意見を運営に反映させ、サービス向上に取り組んでいた。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか 計画どおり事業が実施されているか	5	4	4
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	条例の理念の実現	川崎市子どもの権利に関する条例の理念（子どもの参加の促進、子どもの居場所の確保等）の実現が図られているか。	5	5	5
	（評価の理由）　子どもたちの育ちに応じ「遊び」をつくり出すことを尊重し、「自分の責任で自由に遊ぶ」という理念を持つプレーパークを設置・運営し、そこでの活動を通して、子どもも大人も共に成長していけるような環境を整備した。子どもの「やってみたい」という気持ちを尊重し、自主性や協調性を育む取組（夢パまつり、こどもゆめ横丁など）を展開し、絵本の交換会など、利用者の意見を取り入れた新たな事業にも取り組んだ。また、様々な課題を抱える子ども・若者たちも受け入れ、彼らがが安心して自由に過ごせる居場所の運営を行った。 こうした取組について、新聞、ラジオ、テレビ、地域情報誌等メディアを利用し、イベント、自主企画事業や活動の様子を発信しているだけでなく、取材を積極的に受け入れ、夢パークの理念、活動の様子を伝え、認知度の向上、利用促進を図っている。　平成28年度の総利用者数は、主要イベント時の天候不順により減少したが、利用団体数は増加した。 子どもの権利条例の理念の実現にあたっては、子どもの意見を取り入れ、主体性を尊重する事業（KUJI ROCK、こどもゆめ横丁など）や、子どもの要望に基づくイベントの開催（夏のミニイベント）を実施する等、参加する権利（条例第15条）の保障を推進し、不登校児童・生徒の居場所である「フリースペースえん」の運営等による子どもの居場所の支援（条例第27条）を推進した。また、子どもの権利の日事業への参画、全国からの視察・取材の受入等、条例および夢パークの理念について積極的に情報発信を行い、子どものSOSをキャッチしやすい環境づくり等の取組も推進した。			
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか 事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか	10	3	6
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール（規則・マニュアル等）と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	（評価の理由） 必要な有資格者（保育士、教員等）が採用され、計画どおりの人員配置が行い、適正な職員採用が行われた。 年間43回の研修が計画的に実施された。施設の理念に関する研修、子どもを取り巻く社会状況に関する研修など、施設の特徴とニーズに合わせた研修を積極的に開催し、職員のスキルアップを図り、成果を施設運営に反映させた。 個人情報の取扱いについては、適正な管理・運用が行われ、情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	5	10
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
	(評価の理由) 定期的な広報誌の発行、ホームページでの施設、イベント紹介、新聞・テレビ・ラジオ・情報誌等のメディアを利用したPR等の積極的な広報を行った。国や地方自治体、学校、市民活動団体等の視察を頻繁に受入れ、全国に向けて積極的な情報発信を行った。 利用者への接遇について、接遇研修等により職員のスキルアップを図り、適切に対応した。 地域団体・学校が参加する施設の運営懇話会を開催して意見などを運営に活かしているほか、市や区の各種会議への出席、職員・教員の研修等の受入れを行うなど、行政等との連携を積極的に行った。また地元の小学校との情報交換や、地元町内会の協力によるイベントの開催など、地域とも積極的に連携し交流を進めた。不登校児童の居場所事業では、学校や区役所・児童相談所等の福祉機関と連携して子どもの状況を把握・共有して支援に結びつけた。 子ども、若者の自主性を重視して、利用者懇談会やアンケート等により意見を集め、その意見をイベントの内容や施設の運営方法、利用方法などに積極的に反映させた。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
	(評価の理由) 利用者の安全を確保するため、日常点検及び毎月の定期的な点検を入念に行い、修繕の必要な箇所を把握して、適切な修繕(壁や調理場の補修等)を行った。感染症予防等の衛生管理も適切に行った。 リスクとハザードに関する研修の実施、職員による巡回、子どもが見えにくい位置の危険(釘がとび出ている等)の除去の徹底等により、事故防止の徹底を図った。事故等が発生した場合のマニュアルが整備され、保護者との連絡を丁寧に行う等、適切な対応を行った。 防犯カメラの設置や、地域との連携による防犯体制が構築され、緊急時のマニュアルも整備されている。 災害発生時に利用者の安全を確保するため、災害発生時のマニュアルを整備し、利用者とともに避難訓練、消防訓練を適正に実施した。また、災害用井戸の維持管理、帰宅困難者の受入のための備蓄品の管理など、施設として災害対応の体制を整備した。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	5	3	3
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) 仕様書に基づき、適正な会計処理が行われた。ごみの持ち帰りの徹底、廃材や不要物品の受入等の工夫により、経費の削減を行い、効率的・効果的な支出を行った。				

注) 配点×(評価段階／5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	73	評価ランク	B

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価
A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市子どもの権利に関する条例の理念に基づく象徴的な施設である本施設は、自由な遊び場として、子どもの自主性を重視し、その主体的な取組を尊重し、自発的活動を支援することにより、それぞれの子どもに応じた成長及び子どもの地域等における活動への参加の促進に寄与している。また、不登校児童生徒の居場所である「フリースペースえん」では、指定管理者の専門性や人的ネットワークを活かした様々な活動が行われている。自由な遊び場や地域における子どもの居場所への需要の高まる中で、そのようなニーズに迅速かつ柔軟に対応していることは非常に高く評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

自主的、自発的活動と居場所づくりを支援するため、引き続き事業者、地域一体となって適切な管理運営を行うとともに、施設の理念をしっかり職員間で共有し、子どもの権利条例の理念を具現化する施設としての役割を今後もしっかり担うこと。

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：子ども夢パーク共同運営事業体
施設名：川崎市子ども夢パーク
対象年度：31年度

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してくだ

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		69,654,000	76,499,000	6,845,000	9.8%		76,499,000	0	0.0%	
2　雑収入		0	0	0	－		0	0	－	
3　補償金		0	0	0	－		6,690	6,690	－	新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に伴う補償金
（小　計）		69,654,000	76,499,000	6,845,000	9.8%		76,505,690	6,690	0.0%	
Ⅱ　支出の部										
1　報酬		41,996,000	44,538,400	2,542,400	6.1%		43,257,015	-1,281,385	-2.9%	
2　福利厚生費		5,800,000	9,123,000	3,323,000	57.3%	給与手当の、報酬から福利厚生費への変更分	8,182,364	-940,636	-10.3%	
3　諸謝金		132,000	102,000	-30,000	-22.7%		108,000	6,000	5.9%	
4　旅費交通費		15,000	3,000	-12,000	-80.0%		1,104	-1,896	-63.2%	
5　通信運搬費		342,000	330,000	-12,000	-3.5%		301,131	-28,869	-8.7%	
6　什器備品費		174,000	200,000	26,000	14.9%		0	-200,000	-100.0%	
7　印刷製本費		100,000	0	-100,000	0.0%		0	0	－	
8　消耗品費		1,793,000	1,776,000	-17,000	-0.9%		2,842,242	1,066,242	60.0%	遊具の修繕に必要な木材、図書、楽器などの購入費等
9　光熱水費		3,900,000	3,174,000	-726,000	-18.6%		3,067,015	-106,985	-3.4%	
10　修繕費		750,000	1,171,000	421,000	56.1%		2,922,918	1,751,918	149.6%	照明のLED化、床の張替などの費用等
11　手数料		5,000	25,000	20,000	400.0%		26,684	1,684	6.7%	
12　委託費		8,954,000	9,147,000	193,000	2.2%		8,783,696	-363,304	-4.0%	
13　賃借料		0	121,000	121,000	0.0%		120,804	-196	-0.2%	
14　保険料		200,000	204,000	4,000	2.0%		200,880	-3,120	-1.5%	
15　租税公課		3,950,000	4,949,700	999,700	25.3%		4,681,950	-267,750	-5.4%	
16　本部経費	本部における夢パーク業務経費	1,543,000	1,634,900	91,900	6.0%		1,634,900	0	0.0%	
（小　計）		69,654,000	76,499,000	6,845,000	9.8%		76,130,703	-368,297	-0.5%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		0	0	0			374,987	374,987		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.0%				100.5%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：子ども夢パーク共同運営事業体
施設名：川崎市子ども夢パーク
対象年度：30年度

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してくだ

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
2　雑収入		0	0	0	－		127,210	127,210	－	社会保険料還付金
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,781,210	127,210	0.2%	
Ⅱ　支出の部										
1　報酬		41,996,000	39,620,000	-2,376,000	-5.7%		38,035,054	-1,584,946	-4.0%	上半期の１名欠員分
2　福利厚生費		5,800,000	8,180,000	2,380,000	41.0%	給与手当の、報酬から福利厚生費への変更分	7,993,988	-186,012	-2.3%	
3　諸謝金		132,000	102,000	-30,000	-22.7%		99,000	-3,000	-2.9%	
4　旅費交通費		15,000	5,000	-10,000	-66.7%		824	-4,176	-83.5%	
5　通信運搬費		342,000	330,000	-12,000	-3.5%		307,553	-22,447	-6.8%	
6　什器備品費		174,000	100,000	-74,000	-42.5%		0	-100,000	-100.0%	
7　印刷製本費		100,000	0	-100,000	0.0%		0	0	－	
8　消耗品費		1,793,000	1,682,000	-111,000	-6.2%		2,236,076	554,076	32.9%	ロープ、木材の購入費等
9　光熱水費		3,900,000	3,121,000	-779,000	-20.0%		3,153,466	32,466	1.0%	
10　修繕費		750,000	1,615,000	865,000	115.3%		3,135,572	1,520,572	94.2%	照明のLED化、防砂ネット設置工事費等
11　手数料		5,000	15,000	10,000	200.0%		15,320	320	2.1%	
12　委託費		8,954,000	8,910,000	-44,000	-0.5%		8,972,479	62,479	0.7%	
13　賃借料		0	121,000	121,000	0.0%		120,528	-472	-0.4%	
14　保険料		200,000	180,000	-20,000	-10.0%		178,890	-1,110	-0.6%	
15　租税公課		3,950,000	4,130,000	180,000	4.6%		3,389,100	-740,900	-17.9%	財団の総収入減にともなう消費税減分
16　本部経費	本部における夢パーク業務経費	1,543,000	1,543,000	0	0.0%		1,543,000	0	0.0%	
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,180,850	-473,150	-0.7%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		0	0	0			600,360	600,360		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.0%				100.9%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：子ども夢パーク共同運営事業体
施設名：川崎市子ども夢パーク
対象年度：29年度

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してくだ

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
Ⅱ　支出の部										
1　報酬		41,996,000	40,180,000	-1,816,000	-4.3%		39,162,690	-1,017,310	-2.5%	
2　福利厚生費		5,800,000	7,616,000	1,816,000	31.3%	給与手当につき、報酬ではなく福利厚生費としているため	8,215,677	599,677	7.9%	
3　諸謝金		132,000	108,000	-24,000	-18.2%		42,000	-66,000	-61.1%	外部講師によらず、内部研修を充実させたため
4　旅費交通費		15,000	10,000	-5,000	-33.3%		2,490	-7,510	-75.1%	通勤圏内の出張が多かったため
5　通信運搬費		342,000	334,000	-8,000	-2.3%		336,418	2,418	0.7%	
6　什器備品費		174,000	100,000	-74,000	-42.5%		252,806	152,806	152.8%	経年劣化した備品の買い替えが必要になったため
7　印刷製本費		100,000	150,000	50,000	0.0%		0	-150,000	-100.0%	パンフレットの増刷を前年度中に前倒しで印刷したため
8　消耗品費		1,793,000	1,707,000	-86,000	-4.8%		1,866,540	159,540	9.3%	
9　光熱水費		3,900,000	3,581,000	-319,000	-8.2%		3,182,327	-398,673	-11.1%	電力会社の変更及びガス会社との契約見直しのため
10　修繕費		750,000	950,000	200,000	26.7%		1,336,283	386,283	40.7%	照明のLED化、コンセント増設等の整備のため
11　手数料		5,000	10,000	5,000	100.0%		20,932	10,932	109.3%	車検手数料を配分していなかったため
12　委託費		8,954,000	9,103,000	149,000	1.7%		8,915,023	-187,977	-2.1%	
13　賃借料		0	0	0	0.0%		90,720	90,720	-100.0%	コピー機リース賃借料の科目を新設したため
14　保険料		200,000	182,000	-18,000	-9.0%		204,910	22,910	12.6%	車検保険料を配分していなかったため
15　租税公課		3,950,000	4,080,000	130,000	3.3%		4,098,200	18,200	0.4%	
16　本部経費	本部における夢パーク業務経費	1,543,000	1,543,000	0	0.0%		1,543,000	0	0.0%	
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,270,016	-383,984	-0.6%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		0	0	0			383,984	383,984		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.0%				100.6%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名：子ども夢パーク共同運営事業体
施設名：川崎市子ども夢パーク
対象年度：28年度

（単位：円）

勘定科目、内訳：
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明

①提案額：
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額：
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記

決算額③：
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」：
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差（原則として20%以上かつ1,000千円以上）が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内　訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
Ⅰ　収入の部										
1　指定管理料		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
Ⅱ　支出の部										
1　報酬		41,996,000	40,380,000	-1,616,000	-3.8%		36,489,026	-3,890,974	-9.6%	職員1名の急な欠員のため
2　福利厚生費		5,800,000	7,416,000	1,616,000	27.9%		8,059,297	643,297	8.7%	
3　諸謝金		132,000	132,000	0	0.0%		96,000	-36,000	-27.3%	内部講師研修の充実
4　旅費交通費		15,000	15,000	0	0.0%		1,566	-13,434	-89.6%	通勤圏内の出張が多かったため
5　通信運搬費		342,000	364,000	22,000	6.4%		320,672	-43,328	-11.9%	
6　什器備品費		174,000	150,000	-24,000	-13.8%		107,330	-42,670	-28.4%	必要な消耗品の購入を優先したため
7　印刷製本費		100,000	0	-100,000	0.0%		149,040	149,040	-100.0%	次年度に予定していたパンフレット増刷を行ったため
8　消耗品費		1,793,000	1,643,000	-150,000	-8.4%		2,820,177	1,177,177	71.6%	以前よりの課題・必要な物品を購入したため
9　光熱水費		3,900,000	4,156,000	256,000	6.6%		3,136,134	-1,019,866	-24.5%	昨年度より光熱水費の料金が下がったため
10　修繕費		750,000	533,000	-217,000	-28.9%		3,707,631	3,174,631	595.6%	防犯対策と経年劣化による修繕をしたため
11　手数料		5,000	12,000	7,000	140.0%		7,560	-4,440	-37.0%	手数料の掛からない支払方法に努めたため
12　委託費		8,954,000	9,173,000	219,000	2.4%		9,406,963	233,963	2.6%	
13　賃借料		0	0	0	0.0%		8,920	8,920	-100.0%	公用車の調子が悪くレンタカーを使用したため
14　保険料		200,000	187,000	-13,000	-6.5%		181,470	-5,530	-3.0%	
15　租税公課		3,950,000	3,950,000	0	0.0%		3,588,495	-361,505	-9.2%	
16　本部経費	本部における夢パーク業務経費	1,543,000	1,543,000	0	0.0%		1,573,719	30,719	2.0%	
（小　計）		69,654,000	69,654,000	0	0.0%		69,654,000	0	0.0%	
Ⅲ　収支（収入と支出の差）		0	0	0			0	0		
収支比率（収入／支出）		100.0%	100.0%				100.0%			

記入時期の目安：基本協定書締結時

記入時期の目安：年度協定書締結時

記入時期の目安：年度終了後速やかに